

民法成立史一斑(六)

——筑波大学附属図書館蔵「穂積文書」採録——

阿部 徹

第一部 旧民法関係資料

二 財産編関係(承前)

二一 民法草案財産編(承前)

第二部 人権及ヒ義務

総則

第二百九十三条 (略)

第二百九十四条 人定法ノ義務ハ其履行ニ付キ法律ノ許セル

諸般ノ方法ニ依リテ債務者ヲ強要スルコトヲ得ルモノナリ

自然ノ義務ニ対シテハ訴権ヲ生セス

法律ハ道德及ヒ宗教ノ義務ニ干渉セス

民法成立史一斑(六)

第一章 義務ノ原因

総則

第二百九十五条 義務ハ左ノ諸件ヨリ生ス

第一 合意即チ契約

第二 不当ノ利得

第三 不正ノ損害

第四 法律ノ規定

第一節 合意及ヒ契約

第二百九十六条 合意トハ物權ト人權トヲ問ハス或ル權利ヲ

創設シ變更シ又ハ消滅セシムルヲ目的トスル二人又ハ数人

ノ意思ノ合致ヲ謂フ

合意カ人権又ハ義務ノ創設ヲ主タル目的トスルトキハ之ヲ

契約ト名ツク

第一款 契約ノ種類

第二百九十七条 契約ニハ双務ノモノ有リ片務ノモノ有リ

当事者相互ニ義務ヲ負担スルトキハ其契約ハ双務ノモノナリ

当事者ノ一方ノミカ他ノ一方ニ対シテ義務ヲ負担スルトキハ其契約ハ片務ノモノナリ

第二百九十八条 契約ニハ有償名義ノモノ有リ無償名義ノモノ有リ

各当事者カ出捐ヲ為シテ相互ニ利益ヲ得又ハ第三者ヲシテ之ヲ得セシムルトキハ其契約ハ有償名義ノモノナリ

当事者ノ一方ノミカ何等ノ利益ヲモ給セスシテ他ノ一方ヨリ利益ヲ受クルトキハ其契約ハ無償名義ノモノナリ

第二百九十九条 契約ニハ諾成ノモノ有リ要物ノモノ有リ

契約カ当事者ノ承諾ノミヲ以テ成立スルトキハ其契約ハ諾成ノモノナリ

契約カ当事者ノ承諾ノ外尚ホ目的物ノ引渡ヲ要スルトキハ其契約ハ要物ノモノナリ

第三百条 契約ニハ要式ノモノ有リ不要式ノモノ有リ

公正証書ヲ以テ承諾ヲ与フ可キ契約ハ要式ノモノナリ
此他ノ場合ニ於ケル契約ハ不要式ノモノナリ

第三百一条 契約ニハ実定ノモノ有リ射倖ノモノ有リ

契約ノ成立及ヒ効力カ契約ノ当初ヨリ確実ナルトキハ其契

約ハ実定ノモノナリ

契約ノ成立又ハ其効力ノ全部若クハ一分カ偶然ノ事ニ繋カ
ルトキハ其契約ハ射倖ノモノナリ

第三百二条 契約ニハ主タルモノ有リ従タルモノ有リ

契約ノ成立カ他ノ契約ノ成立ニ關係ナキトキハ其契約ハ主
タルモノナリ

反対ノ場合ニ於テハ其契約ハ従タルモノナリ

主タル契約ノ無効ハ従タル契約ノ無効ヲ惹起ス但従タル契
約カ主タル契約ノ無効ノ場合ニ於テ之ニ代ハルヲ目的トス
ルモノナルトキハ此限ニ在ラス

従タル契約ノ無効ハ主タル契約ノ無効ヲ惹起セス但当事者
カ其二箇ノ契約ヲ分離ス可カラサルモノト看做シタルトキ
ハ此限ニ在ラス

第三百三条 契約ニハ有名ノモノ有リ無名ノモノ有リ

有名ノ契約ハ固有ノ名称アリテ本法又ハ商法ニ於ケル特別
ノ規則ノ目的タルモノナリ特別ノ規則ヲ設ケサル総テノ場
合ニ於テハ其契約ハ本部ノ規則ニ従フ

無名ノ契約ハ本部ニ掲ケタル契約ノ一般ノ規則ニ従フ又有
名ノ契約ニ特別ナル規則ハ其契約ト最モ類似スル無名ノ契
約ニ之ヲ適用スルコトヲ得

第二款 合意ノ成立及ヒ有効ノ条件

第三百四条 凡ソ合意ノ成立スルヲ為メニハ左ノ三箇ノ条件ヲ

具備スルヲ必要トス

第一 当事者又ハ代人ノ承諾

第二 確定ニシテ各人カ処分權ヲ有スル目的物

第三 眞実且合法ノ原因

右ノ外尚ホ要式ノ契約ハ必要ノ方式ヲ遵守シ要物ノ契約ハ返還ス可キ物ノ引渡ヲ為シタルニ非サレハ成立セズ

第三百五条ノ第三百七条 [略]

第三百八条 遠隔ノ地ニ於テ取結フ契約ノ言込ハ其受諾ノ為

メ明示又ハ黙示ノ期間ナキトキハ受諾ノ報ナキノ間ハ之ヲ言消スコトヲ得但言消ノ報ノ達スルニ先タチ受諾ノ報ヲ発シタルトキハ其受諾ハ有効ニシテ其言消ハ無効ナリ

右ニ反シ明示又ハ黙示ノ期間アルトキハ其期間ハ言込ヲ言消スコトヲ得ス但言消ノ報カ言込又ハ期間指示ノ報ニ先タチ又ハ同時ニ先方ニ達シタルトキハ此限ニ在ラス

此指示期間ニ受諾ヲ為ササルトキハ言込ハ期間滿了ノミニテ消滅ス

受諾モ亦之ヲ言消スコトヲ得但其報カ受諾ノ報ニ先タチ又ハ同時ニ言込人ニ達スルコトヲ要ス

言込人カ死亡シ又ハ契約スル能力ヲ失ヒタルモ先方カ未タ此事實ヲ知ラサル間ハ其受諾ハ有効ナリ

郵便、電信ノ錯誤ハ差出人ノ責ニ帰ス但郵便、電信ノ官署ニ対スル求償權アルトキハ之ヲ行フコトヲ妨ケス

民法成立史一斑 (六)

第三百九条 当事者ノ錯誤ニテ合意ノ性質、目的又ハ原因ノ

着眼ニ相違アリシトキハ其錯誤ハ承諾ヲ阻却ス

合意ノ縁由ノ錯誤ハ其錯誤ノミニテハ無効ノ原因ヲ成サス但当事者ノ一方ノ詐欺ニ関シテ定ムルモノハ此限ニ在ラス

当事者ノ身上ノ錯誤ハ其身上ニ付テノ着眼カ決意ノ原因タリシトキハ其錯誤ハ承諾ヲ阻却ス

身上ノ着眼カ合意ノ附随ノ原因タルニ過キサルトキハ其合意ハ身上ノ錯誤ノ為メ単ニ取消スコトヲ得ヘキモノナリ

第三百十条 物上ノ錯誤カ物ノ品質ニ存シ且其品質ニ付テノ着眼カ当事者ノ決意ヲ助成シタルトキハ其錯誤ハ承諾ノ瑕疵ヲ成ス

之ニ反シテ物ノ品格ニ存スル錯誤ハ承諾ノ瑕疵ヲ成サス但品格ニ着眼セラルル当事者ノ意思カ明示又ハ事情ニ因リテ明白ナルトキハ此限ニ在ラス物ノ時代、出処又ハ用方ノ如キ思想上ノ品格ニ付テモ亦同シ

算数、名称、日附又ハ場所ノ錯誤ニ付テハ第五百五十八条ノ規定ニ從フ

第三百十一条 法律ノ錯誤カ或ハ合意ノ性質、原因又ハ効力

ニ存スルトキ或ハ物ノ資格又ハ人ノ分限ニ存シテ其資格若クハ分限カ決意ヲ為サシメタルトキハ其錯誤ハ事實ノ錯誤ノ如ク承諾ヲ阻却シ又ハ其瑕疵ヲ成ス

然レトモ裁判所ハ深く注意シ且宥恕ス可キ情状アルニ非サ

二九三

レハ右錯誤ノ為メ合意ノ無効ヲ認許スルコトヲ得ス

法律ノ錯誤ハ責罰ニ対シ時期ヨリ生スル法律上ノ失権ニ対シ又ハ証書ノ違式ヨリ生スル無効ニ対シテモ其他公ノ秩序ニ係ル法律、規則ノ不知ニ関シテモ当事者ヲ救護スル為メニ之ヲ認許セス

第三百十二条、第三百十三条〔略〕

第三百十四条 強暴ニ因リテ身体財産ニ危難ノ恐ヲ受ケタル第三者カ当事者ノ配偶者又ハ直系ノ親屬若クハ姻屬ナルトキハ其強暴ハ常ニ之ヲ当事者ニ加ヘタリト看做ス

此他ノ人ニ付テハ親屬ナルト姻屬ナルト又ハ外人ナルトヲ問ハス裁判所ハ此等ノ者ニ対シテ加ヘタル強暴カ当事者ノ承諾ニ及ホセシ影響ヲ其事情ニ從ヒテ審定ス

第三百十五条〔略〕

第三百十六条 強暴ヲ受ケタル一方ハ合意ヲ無効ト為スコトヲ得ル場合ニ於テ強暴ヲ行ヒタル者ニ対シ損害賠償ノミヲ請求シテ其合意ヲ維持スルコトヲ得

強暴カ合意ノ決意ヲ為サシメタルニ非スシテ単ニ不利ナル条件ヲ承諾セシメタルトキハ其合意ハ無効ト為ラス但賠償ノ要求ヲ妨ケス

第三百十七条 強暴ノ場合ニ於テ裁判所ハ当事者ノ男女、年齢、強弱、智愚及ヒ相互ノ身分ヲ斟酌ス可シ

然レトモ卑屬親ノ尊屬親ニ対スル尊敬ノミニ出テタル畏懼

ハ合意ヲ取消スノ理由ト為ラス

第三百十八条 錯誤、強暴、詐欺及ヒ無能力ハ之ヲ推定セス其申立人ヨリ之ヲ証スルコトヲ要ス

当事者ノ双方ニ屬スル無効訴權ノ方法ハ相互ノ非理ニ基クトキト雖モ互ニ毀滅セス但損害アルトキハ其賠償ノ相殺ヲ妨ケス

第三百十九条 前数条ノ場合ニ於ケル無効訴權ハ無能力者又ハ瑕疵アル承諾ヲ与ヘタル者ノミニ屬ス

然レトモ処刑ノ言渡ヨリ生スル無能力ハ其言渡ヲ受ケタル者ト合意ヲ為シタル者ヨリ之ヲ申立ツルコトヲ得

第三百二十条〔略〕

第三百二十一条 合意ハ未來ニ係リ且成立ノ不確定ナル物ヲ目的トスルコトヲ得此場合ニ於テ諾約者ハ其諾約ノ実施ヲ妨碍シ若クハ減縮スル何等ノ事ヲモ為サス又其実施ニ便ス可キ何等ノ事ヲモ放却シ若クハ懈怠セサルコトヲ要ス

然レトモ免開セサル相続ニ於ケル權利ヲ与奪スルノ合意ハ其相続ヲ遺ス可キ人ノ承諾アリト雖モ之ヲ為スコトヲ得ス但法律ヲ以テ特例ヲ明示シタル場合ハ此限ニ在ラス

第三百二十二条 合意ハ不法又ハ不能ノ作為又ハ不作為ヲ目的トスルトキハ無効ナリ

合意ノ目的タル第三者ノ作為又ハ不作為カ合法又ハ可能ナリト雖モ若シ諾約者カ其第三者ニ対シテ威權ヲ有セサルト

キハ其諾約ハ之ヲ不能ノ作為又ハ不作為ヲ目的トセルモノト看做ス

然レトモ何人ニテモ第三者ノ作為又ハ不作為ニ付キ明示ニテ担保人ト為ルコトヲ得此場合ニ於テハ諾約者ハ保証人ノ義務ニ服ス

又何人ニテモ第三者ニ代ハリテ諾約ヲ為シ若シ其第三者カ之ヲ履行セサルニ於テハ過怠金ヲ弁済ス可キノ責ニ服スルコトヲ得

何人ニテモ第三者ノ名ヲ以テ合意ヲ為シ第三者ヲシテ之ヲ承認セシム可キコトノミヲ諾約シタルトキハ其第三者ノ承認シタル時ヨリ義務ヲ免カル

第三百二十三条 要約者カ合意ニ付キ正当ニシテ且金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ有セサルトキハ其合意ハ原因ナキ為メ無効ナリ

第三者ノ利益ノ為メニ要約ヲ為シ且之ニ過怠約款ヲ加ヘサルトキハ其要約ハ之ヲ要約者ニ於テ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ有セサルモノト看做ス

然レトモ第三者ノ利益ニ於ケル要約ハ要約者カ自己ノ為メ為シタル要約ノ從タリ又ハ諾約者ニ為シタル贈与ノ從タル条件ナルトキハ有効ナリ

右二箇ノ場合ニ於テ從タル条件ノ履行ヲ得サルトキハ要約者ハ単ニ合意ノ解除訴權又ハ過怠約款ノ履行訴權ヲ行フコ

トヲ得

第三百二十四条 主タリ又ハ從タル要約ハ常ニ要約者ノ相統

人ノ一人若クハ數人ノ利益ノ為メニ之ヲ為スコトヲ得但相統法カ一人ノ相統人ヲ利シテ他ノ相統人ヲ害スルコトヲ許セル限度及ヒ条件ニ從フ

又主タリ又ハ從タル諾約ハ諾約者ノ相統人ノ一人若クハ數人ノ負担トシテ之ヲ為スコトヲ得

第三百二十五条 〔略〕

第三百二十六条 合意ノ証書ニ原因ヲ明示シタルト否トヲ問ハス其原因ノ不成立、虚妄又ハ不法ナルコトノ証拠ハ被告ヨリ之ヲ為スコキモノトス若シ原因ノ明示ナキトキハ被告ハ先ツ債權者ヲシテ其原因ヲ陳述セシムル為メニ之ニ催告スルコトヲ得但其原因ニ付キ争フコトヲ妨ケス

第三款 合意ノ効力

第一則 當事者間及ヒ其承繼人間ノ合意ノ効力第三百二十七条 適法ニ為シタル合意ハ當事者ノ間ニ於テ法律ニ同シキ効力ヲ有ス

其合意ハ當事者ノ双方カ承諾スルニ非サレハ之ヲ廢罷スルコトヲ得ス但法律カ一方ノ意思ヲ以テ廢罷スルコトヲ許セル場合ハ此限ニ在ラス

第三百二十八条 當事者ハ特別ノ合意ヲ以テ普通法ノ規定ニ依ラス又其効力ヲ増減スルコトヲ得但公ノ秩序及ヒ善良ノ

風俗ニ触ルルコトヲ得ス

第三百二十九条 合意ハ当事者ノ明示及ヒ默示ノ効力ノミナラス尚ホ条理若クハ慣習ヨリ生シ又ハ合意ノ性質ニ從ヒテ法律ノ規定ヨリ生スル効力ヲ有ス

第三百三十条 〔略〕

第三百三十一条 特定物ヲ授与スルノ合意ハ引渡ヲ要セスシテ直チニ其所有權ヲ移転ス但合意ニ附帶スルコト有ル可キ停止条件ニ関シ下ニ規定スルモノヲ妨ケス

第三百三十二条 代替物ヲ授与スルノ合意ハ諾約者ヲシテ其物ノ所有權ヲ約束シタル性質、品格及ヒ分量ヲ以テ要約者ニ移転スルノ義務ヲ負ハシム此場合ニ於テ所有權ハ物ノ引渡ニ因リ又ハ当事者立会ニテ為シタル其指定ニ因リテ移転ス

第三百三十三条 前二条ノ場合ニ於テハ約束シタル時日及ヒ場所ニ於テ諾約者ノ注意及ヒ費用ニテ物ノ引渡ヲ為スコトヲ要ス

引取ノ費用ハ要約者之ヲ負担ス
証書ノ費用ハ有償行為ニ付テハ当事者双方之ヲ負担シ無償行為ニ付テハ得益者之ヲ負担ス

不動産ノ引渡ハ証書ノ交付及ヒ場所ノ明渡ヲ以テ之ヲ為ス但簡易ノ引渡及ヒ占有ノ改定ニ関シ第百九十二条ニ規定シタルモノヲ妨ケス

債權ノ引渡ハ証書ノ交付ヲ以テ之ヲ為ス

引渡ノ期限ノ定マラサリシトキハ即時ニ引渡ヲ要求スルコトヲ得

引渡ノ場所ノ定マラサリシトキハ特定物ニ付テハ合意ノ當時其物ノ存在セシ場所、代替物ニ付テハ其物ノ指定ヲ為シタル場所其他ノ場合ニ在テハ諾約者ノ住所ニ於テ引渡ヲ為ス

第三百三十四条 諾約者ハ特定物ノ引渡ヲ為スマテ善良ナル管理者タルノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス懈怠又ハ惡意アルトキハ損害賠償ノ責ニ任ス

無償ニテ讓渡シタル物ノ保存ニ付テハ諾約者ハ自己ノ物ニ加フルト同一ノ注意ヲ加フルノミノ責ニ任ス

此他諾約者カ右ト同一ノ注意ノミヲ負担スル場合ハ其各事項ニ於テ之ヲ規定ス

第三百三十五条 授与スルノ合意カ特定物ヲ目的トスルトキハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ出テタル其物ノ滅失又ハ毀損ハ諾約者カ危険ヲ負担シタル場合及ヒ停止条件ニ関スル規定ヲ除クノ外要約者ノ損ニ歸シ其物ノ増加ハ要約者ノ益ニ歸ス

然レトモ諾約者カ物ノ引渡ノ遲滞ニ付セラレタルトキハ其滅失又ハ毀損ハ諾約者ノ負担ニ歸ス但引渡ヲ為シタルトキト雖モ滅失又ハ毀損ヲ致ス可カリシ場合ハ此限ニ在ラス

第三百三十六條〔第三百三十八條〕〔略〕

第三百三十九條 債權者ハ其債務者ニ屬スル權利ヲ申立て及ヒ其訴權ヲ行フコトヲ得

債權者ハ此事ノ為メ或ハ差押ヲ為シ或ハ債務者ノ原告又ハ被告タル訴ニ參加シ或ハ民事訴訟法ニ從ヒテ得タル裁判上ノ地位ヲ以テ第三者ニ對スル間接ノ訴ヲ行フ

然レトモ債權者ハ債務者ニ屬スル純然タル權能又ハ債務者ノ一身ニ專屬スル權利ヲ行フコトヲ得ス又法律又ハ合意ノ明文ヲ以テ差押ヲ禁シタル財産ヲ差押フルコトヲ得ス

第三百四十條 右ニ反シ債權者ハ其債務者カ第三者ニ對シ承諾シタル義務、拋棄又ハ讓渡ニ付キ其損害ヲ受ク但債權者ノ權利ヲ詐害スルノ行為ハ此限ニ在ラス

債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知りテ自己ノ働方財産ヲ減シ又ハ自己ノ受方財産ヲ増シタルトキハ之ヲ詐害ノ行為トス

第三百四十一條 詐害ノ行為ノ廢罷ハ債務者ト約束シタル者又ハ転得者ニ對シ次條ノ區別ニ從ヒ債權者ヨリ廢罷訴權ヲ以テ之ヲ請求ス

債務者カ詐害スルノ意思ヲ以テ故サラニ訴訟ニ失敗シ又ハ請求ノ却下ヲ受ケタルトキハ債權者ハ民事訴訟法ニ從ヒ第三者ノ主參加又ハ再審ノ方法ニ依リテ訴フルコトヲ得
右孰レノ場合ニ於テモ債務者ヲ訴訟ニ參加セシムルコトヲ

要ス

債權者カ詐害ノ行為ノ廢罷ヲ得ル能ハサルトキハ被告ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得

第三百四十二條 債權者ハ攻撃スル行為ノ如何ヲ問ハス其債務者ノ詐害ヲ証スルコトヲ要ス此他有償名義ノ行為ニ付テハ債務者ト約束シ又ハ之ト訴訟シタル者ノ通謀ヲ証スルコトヲ要ス

讓渡ニ對スル廢罷訴權ハ有償名義又ハ無償名義ノ転得者カ最初ノ取得者ト約束スルニ當リ債權者ニ加ヘタル詐害ヲ知リタルトキニ非サレハ其転得者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第三百四十三條〔略〕

第三百四十四條 廢罷訴權ハ詐害行為ノ有リタル時ヨリ三十年ニシテ時効ニ罹リ消滅ス若シ債權者カ詐害ヲ覺知シタルトキハ其覺知ノ時ヨリ二個年ニシテ消滅ス

右ノ時効ハ第三者故障申立ノ訴權ニ之ヲ適用ス

第二則 第三者ニ對スル合意ノ効力

第三百四十五條〔略〕

第三百四十六條 所有者カ一箇ノ有体動産ヲ二箇ノ合意ヲ以テ各別ニ二人ニ与ヘタルトキハ其二人中現ニ占有スル者ハ証書ノ日附ハ後ナリトモ其所有者タリ但其者カ自己ノ合意ヲ為ス當時ニ於テ前ノ讓渡ヲ知ラス且前ノ合意ヲ為シタル

者ノ財産ヲ管理スル責任ナキコトヲ要ス

此規則ハ無記名証券ニ之ヲ適用ス

第三百四十七條 記名証券ノ譲受人ハ債務者ニ其譲受ヲ合式

ニ告知シ又ハ債務者カ公正証書若クハ確定日附ノ証書ヲ以テ之ヲ受諾シタル後ニ非サレハ自己ノ權利ヲ以テ譲渡人ノ承継人及ヒ債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

債務者ハ譲渡ヲ承諾シタルトキハ譲渡人ニ対スル抗弁ヲ以テ新債権者ニ對抗スルコトヲ得ス又譲渡ニ付テノ単一ナル告知ハ債務者ヲシテ其告知後ニ生スル抗弁ノミヲ失ハシム右ノ行為ノ一ヲ為スマテハ債務者ノ弁済、免責ノ合意、譲渡人ノ債権者ヨリ為シタル払渡差押又ハ合式ニ告知シ若クハ承諾ヲ得タル新譲渡ハ総テ善意ニテ之ヲ為シタルモノトノ推定ヲ受ケ且之ヲ以テ懈怠ナル譲受人ニ對抗スルコトヲ得

当事者ノ悪意ハ書面上又ハ裁判上ニテ為シタル其自白ニ因ルニ非サレハ之ヲ証スルコトヲ得ス然レトモ譲渡人ト通謀シタル詐害アリシトキハ其通謀ハ通常ノ証拠方法ヲ以テ之ヲ証スルコトヲ得

裏書ヲ以テスル商証券ノ譲渡ニ特別ナル規則ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三百四十八條 左ニ掲ケタル書類ハ財産所在地ノ区裁判所ニ備ヘタル登記簿ニ之ヲ登記ス

第一 有償名義又ハ無償名義ヲ以テスル不動産所有權其他ノ不動産物權ノ譲渡ヲ記載シタル生存者間ノ公正又ハ私署ノ証書

第二 右同一ノ權利ノ変更又ハ拋棄ヲ記載シタル証書

第三 前二号ノ行為ノ一ヲ目的トスル口頭合意ノ成立ヲ証記シタル判決書

第四 差押ヘタル不動産ノ競落ノ判決書

第五 公用徵収ヲ宣言シタル裁判上又ハ行政上ノ証書

不動産ノ抵当及ヒ不動産ニ関スル先取特權ノ公示ハ債權担保編ノ規定ニ從フ

第三百四十九條 登記ハ当事者ノ請願ニ因リテ合式ニ疎明シタル後其費用ヲ以テ之ヲ為ス

請願者ニハ証書ヲ登記シタル認証書ヲ交付ス

何人ニテモ不動産ニ関スル登記簿ノ抄本ヲ其費用ヲ以テ要求スルコトヲ得

登記ニ関スル方式ハ特別法及ヒ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三百五十條 第三百四十八條ニ掲ケタル証書ノ効力ニ因リテ取得シ変更シ又ハ取回シタル物權ハ其登記ヲ為スマテハ仍ホ名義上ノ所有者ト此物權ニ付キ約束シタル者又ハ其所
有者ヨリ此物權ト相容レサル權利ヲ取得シタル者ニ對抗スルコトヲ得ス但其者ノ善意ニシテ且其行為ノ登記又ハ記入

ヲ要スルモノナルトキハ予メ之ヲ為シタルトキニ限ル
悪意及ヒ通謀ニ付テハ第三百四十七条ノ規定ニ從ヒテ之ヲ
証スルコトヲ得

第三百五十一条 法律、裁判又ハ合意ニ因リテ前取得者ノ為
メ登記ヲ為スノ義務アル者カ之ヲ為サスシテ後ニ取得者ト
為リタルトキハ善意タリト雖モ自己又ハ其相続人若クハ一
般ノ承継人ヨリ登記ナキコトヲ申立テテ前取得者ニ對抗ス
ルコトヲ得ス

第三百五十二条 登記ヲ經タル讓渡ノ解除、銷除又ハ廢罷ヲ
為サントスル訴権カ善意ノ転得者ニ対シテ行ハレサル場合
ニ在テハ原告ハ爾後自己ニ對抗スルコトヲ得ヘキ登記又ハ
記入ヲ防止スル為メ其攻撃スル行為ノ証書ノ登記ノ縁辺ニ
訴状ノ抜抄ヲ附記ス

右ノ訴権ヲ總テノ転得者ニ対シテ行フコトヲ得ル場合ニ在
テハ其攻撃スル行為ノ証書ノ登記ノ縁辺ニ訴状ヲ附記セサ
ル間ハ裁判所ニ於テ其訴訟ヲ受理セス

行為ヲ取消ノ判決書ハ仮執行タリトモ其執行以前ニ訴状ノ附
記ノ末尾ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス縱令執行ナキモ亦其判
決ノ確定ト為リタル時ヨリ一个月内ニ之ヲ記載スルコトヲ
要ス此ニ違ヒタルトキハ其判決ヲ得タル者ヲ五十円以下ノ
過料ニ処ス

裁判所ハ請求ヲ却下シ又ハ其手續ノ失効ヲ宣告シタルトキ

ハ其判決ノ確定ニ至リテ訴状ノ附記ヲ抹消セシムル為メ
権ヲ以テ予メ其抹消ヲ命ス

原告カ取下ヲ為シタルトキハ当事者ノ請願ニ因リテ訴状ノ
附記ヲ抹消ス

第三百五十三条 登記ヲ經タル行為ノ協議上ノ解除、銷除又
ハ廢罷ハ總テ之ヲ任意ノ讓戻ト看做シ第三百四十八条乃至
第三百五十一条ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ為スコトヲ要ス
右登記ハ登記官吏其職權ヲ以テ取消ト為リタル行為ノ証書
ノ登記ノ縁辺ニ之ヲ附記ス

第三百五十四条 登記及ヒ縁辺附記ハ總テ利害ノ關係ヲ有ス
ル者ヨリ其抹消又ハ改正ヲ請求スルコトヲ得

右請求及ヒ其判決ハ第三百五十二条ノ規定シタル如ク其争
フ行為ノ証書ノ登記ノ縁辺ニ之ヲ附記スルコトヲ要ス此ニ
違フ者ノ責罰モ亦同条ノ規定ニ從フ

能力ヲ有シ又ハ合式ニ代理セラレ若クハ輔佐セラレタル当
事者ハ協議ニテ抹消又ハ改正ヲ承諾スルコトヲ得

裁判上ニテ合式ニ命シ又ハ協議ニテ承諾シタル抹消又ハ改
正ハ正当ニ登記又ハ記入ヲ為シタル權利者ヲ此事ニ付キ異
議ヲ為ス為メニ召喚シ又ハ其承服ヲ得タルニ非サレハ之ニ
對抗スルコトヲ得ス

第三百五十五条 登記官吏ハ前数条ニ掲ケタル登記、記載、
抹消若クハ改正又ハ登記認証書ニ於ケル脱漏又ハ訛誤ニ付

キ請願人又ハ利害關係人ニ對シテ其責ニ任ス

第四款 合意ノ解釈

第三百五十六條〜第三百五十七條 (略)

第三百五十八條 合意ノ各項目ハ合意ノ全体ト最モ善ク一致

スル意義ニ從ヒテ相互ニ之ヲ解釈ス

一箇ノ項目ニ二様ノ意義アリテ其一カ項目ニ有益ナル効力ヲ与フルトキハ其意義ニ從フ

第三百五十九條〜第三百六十條 (略)

第二節 不当ノ利得

第三百六十一條 何人ニテモ有意ト無意ト又錯誤ト故意トヲ

問ハス正当ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ付キ利ヲ得タル者

ハ其不当ノ利得ノ取戻ヲ受ク

此規定ハ下ノ區別ニ從ヒ主トシテ左ノ諸件ニ之ヲ適用ス

第一 他人ノ事務ノ管理

第二 負担ナクシテ弁済シタル物及ヒ虚妄若クハ不法ノ

原因ノ為メ又ハ成就セス若クハ消滅シタル原因ノ為メ

ニ供与シタル物ノ領受

第三 遺贈其他遺言ノ負担ヲ付シタル相続ノ受諾

第四 他人ノ物ノ添附ヨリ又ハ他人ノ勞力ヨリ生スル所

有物ノ増加

第五 他人ノ物ノ占有者カ不法ニ收取シタル果実、産出

物其他ノ利益及ヒ之ニ反シテ占有者カ其占有物ニ加ヘ

タル改良但第百九十五条乃至第百九十九条ニ規定シタル區別ニ從フ

第三百六十二條 不在者其他ノ人ノ財産ニ患害アリト見ユル

トキ合意上、法律上又ハ裁判上ノ委任ナク好意ヲ以テ其事

務ヲ管理スル者ハ本主ノ財産ヨリ収メタル利益ヲ返還シ且

其管理ノ際自己ノ名ニテ取得シタル權利及ヒ訴權ヲ本主ニ移転スルノ責アリ

右管理者ハ本主又ハ其相続人カ自ら管理ヲ為シ得ルニ至ル

マテ其管理ヲ繼續スルノ責アリ

又右管理者ハ過失又ハ懈怠ニ因リテ本主ニ加ヘタル損害ノ

責ニ任ス但管理者カ其管理ニ任スルニ至レル事情ヲ酌量ス

ルコトヲ要ス

第三百六十三條 本主ハ管理者カ管理ノ為メニ出シタル必要

又ハ有益ナル諸費用ヲ賠償シ及ヒ管理者カ其管理ノ為メニ

自身ニ負担シタル義務ヲ免カレシメ又ハ其担保ヲ為スコト

ヲ要ス

第三百六十四條 (略)

第三百六十五條 弁済ヲ受ケタル者カ債權者ナルモ債務者ニ

非サル者ヨリ之ヲ受ケタルトキハ弁済者カ錯誤ニテ弁済ヲ

為シタルトキニ非サレハ其取戻ヲ許サス

債權者カ弁済ヲ受ケタル為メニ善意ニテ債權証書ヲ毀滅セ

シトキモ亦其取戻ヲ許サス

右二箇ノ場合ニ於テ弁済者カ事務管理ノ訴權ニ依リ又ハ弁済ノ節ニ掲ケタル代位ノ規則ニ依リ眞ノ債務者ニ對シテ有スル求償權ヲ妨ケス

第三百六十六條ノ第三百六十八條〔略〕

第三百六十九條 不当ニ領受シタル物カ不動産ニシテ且之ヲ

第三者ニ讓渡シタルトキハ初ノ引渡人ハ其選択ヲ以テ或ハ第三占有者ニ對シテ回復ヲ訴ヘ或ハ領受者ニ對シテ取戻ヲ訴フルコトヲ得

善良ナル領受者ニ對シテハ単ニ不動産ノ讓渡代金ヲ取戻シ又ハ其代金ニ関スル訴權ヲ要求シ惡意ナル領受者ニ對シテハ其代金ヲ評價ニテ取戻スコトヲモ得

第三節 不正ノ損害即チ犯罪及ヒ准犯罪

第三百七十條 過失又ハ懈怠ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ其賠償ヲ為スノ責ニ任ス

其損害ノ所為カ有意ニ出テタルトキハ其所為ハ民事ノ犯罪ヲ成シ無意ニ出テタルトキハ准犯罪ヲ成ス

犯罪及ヒ准犯罪ノ責任ノ広狭ハ合意ノ履行ニ於ケル詐欺及ヒ過失ノ責任ニ関スル次章第二節ノ規定ニ從フ

第三百七十一條〔略〕

第三百七十二條 父權ヲ行フ尊屬親ハ己レト同居スル未成年ノ卑屬親ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

後見人ハ己レト同居スル被後見人ノ加ヘタル損害ニ付キ其

責ニ任ス

癡癲白痴者ヲ保管スル者ハ癡癲白痴者ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

教師、師匠又ハ工場長ハ未成年ノ生徒、習業者又ハ職工カ自己ノ監督ノ下ニ在ルノ間ニ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

本条ニ指定シタル責任者ハ損害ノ所為ヲ防止スル能ハサリシコトヲ証スルトキハ其責ニ任セス

第三百七十三條 主人、親方又ハ工事、運送等ノ營業人若クハ公私ノ事務所ハ其使用人、職工又ハ屬員カ受任ノ職務ヲ行フ為メ又ハ之ヲ行フニ際シテ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

第三百七十四條 動物ノ加ヘタル損害ノ責任ハ其所有者又ハ損害ノ時ニ於ケル其使用者ニ歸ス但其損害カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

第三百七十五條 建物其他ノ工作物ノ所有者ハ此等ノ工作物ノ崩壞カ修繕ノ欠缺又ハ築造ノ瑕疵ニ出テタルトキハ其崩壞ニ因リテ加ヘタル損害ノ責ニ任ス但此末ノ場合ニ於テハ築造營業人ニ對スル求償權ヲ妨ケス

堤防ノ破潰ニ因リ投錨若クハ繫纜ノ粗忽ニ因リ又ハ樹木、柱竿、目隠、看板、屋瓦其他堅牢ヲ缺ケル建物ノ部分ノ崩壞墮落ニ因リテ加ヘタル損害ニ付テモ亦同シ

第三百七十六條 既脱後見ナルト否トヲ問ハス未成年者ハ其有意又ハ粗忽ニテ加ヘタル不正ノ損害ニ付テハ刑事上責任ヲ免カル可キト雖モ民事上ノ責任アリト宣告セラルルコト有り

又右未成年者ハ其使用人若クハ屬員又ハ自己ニ屬スル物ノ加ヘタル損害ニ付キ民事上其責ニ任セシメラルルコト有り但後見人ニ対スル求償權ヲ妨ケス

第三百七十七條 前數條ノ場合ニ於テ加害者ニ責任アリト認ムルトキハ裁判所ハ之ニ對シテ主タル裁判ヲ言渡シ且民事担当者ノ從タル義務ノ広狭ヲ定ム但民事担当者ハ犯罪者ニ對シテ当然求償權ヲ有ス

民事担当者ハ法律ニ特定シタル場合ニ非サレハ犯罪者ノ言渡サレタル罰金ノ責ニ任セス

第三百七十八條 本節ニ定メタル總テノ場合ニ於テ數人カ同一ノ所為ニ付キ責ニ任シ各自ノ過失又ハ懈怠ノ部分ヲ知ル能ハサルトキハ各自全部ニ付キ義務ヲ負担ス

第三百七十九條 (略)

第四節 法律ノ規定

第三百八十條 或ル義務ハ人ノ所為ニ拘ハラズ法律ニ依リテ之ヲ負担セシム即チ左ノ如シ

第一 或ル親屬間又ハ或ル姻屬間ノ養料ノ義務

第二 後見ノ義務但法律上免除ヲ得サル場合ニ限ル

第三 共有者間ノ義務

第四 相隣者間ノ義務但地役ヲ成ササルトキニ限ル此等ノ義務ニ特別ナル規則ハ其各事項ニ於テ之ヲ掲ク

第二章 義務ノ効力

總則

第三百八十一條 (略)

第一節 直接履行ノ訴權

第三百八十二條 (略)

第二節 損害賠償ノ訴權

第三百八十三條 債務者カ義務履行ヲ拒絶シ又ハ義務履行ノ不能カ其實ニ帰ス可キ場合及ヒ義務履行ノ遲延シタルノミノ場合ニ於テモ債權者ハ強制執行ヲ得サルトキハ債務者ヲシテ損害賠償ヲ為サシムルコトヲ得

法律ヲ以テ損害賠償ノ額ヲ定メタル場合ノ外當事者之ヲ定メサリシトキハ下ノ區別及ヒ條件ニ從ヒテ裁判所之ヲ定ム

第三百八十四條 損害賠償ハ債務者カ第三百三十六條ニ依リテ遲滞ニ付セラレタル後ニ非サレハ之ヲ負担セス

然レトモ不作為ノ義務ニ於テハ債務者ハ常ニ当然遲滞ニ在リ

犯罪ニ因リテ他人ニ屬スル金錢其他ノ有価物ヲ返還スルノ責ニ任スル者モ亦之ニ准ス

第三百八十五條 損害賠償ハ債權者ノ受ケタル損失ノ償金及

ヒ其失ヒタル利得ノ填補ヲ包含ス

然レトモ債務者ノ惡意ナク懈怠ノミニ出テタル不履行又ハ
遅延ニ付テハ損害賠償ハ当事者カ合意ノ時ニ予見シ又ハ予
見スルヲ得ヘカリシ損失ト利得ノ喪失トノミヲ包含ス
惡意ノ場合ニ於テハ予見スルヲ得サル損害ト雖モ不履行ノ
避ク可カラサル結果タルトキハ債務者其賠償ヲ負担ス

第三百八十六条 損害賠償カ主タル訴ノ目的タルトキハ裁判
所ハ金銭ニテ其額ヲ定ム

損害賠償ノ請求カ直接履行ノ訴又ハ契約解除ノ訴ノ從タル
トキハ裁判所ハ主タル請求ヲ決スルト同時ニ先ツ數額不定
ノ損害賠償ヲ債務者ニ言渡シ其清算ハ疎明ヲ待チテ日後ニ
之ヲ為サシムルコトヲ得

又裁判所ハ債務者ニ直接履行ヲ命スルト同時ニ其極度ノ期
間ヲ定メ若シ此ヲ過クレハ確定ニ決ス可シトシテ其遅延ス
ル日毎ニ又ハ月毎ニ若干ノ償金ヲ払フ可キヲ言渡スコトヲ
得此場合ニ於テハ債務者ハ常ニ即時ノ清算ヲ請求スルコト
ヲ得

第三百八十七条 第三百八十九条 [略]

第三百九十条 双務契約ニ於テ不履行ニ付テノ過怠約款ヲ設
ケタル債権者ハ其解除ノ權利ヲ失ハス但明白ニ其權利ヲ拋
棄シタルトキハ此限ニ在ラス
債権者ハ遅延ノミニ付テノ過怠約款ヲ設ケタルトキニ非サ

レハ解除ト過怠トヲ併セテ要求スルコトヲ得ス

第三百九十一条 [略]

第三百九十二条 債権者ハ右ノ損害賠償ヲ請求スル為メニ何
等ノ損失ヲモ証スルノ責ニ任セス又債務者ハ其請求ヲ拒ム
為メニ意外ノ事又ハ不可抗力ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百九十三条 第三百九十四条 [略]

第三節 担保

第三百九十五条 物權ト人權ト人問ハス權利ヲ讓渡シタル者
ハ讓渡以前ノ原因又ハ自己ノ責ニ帰ス可キ原因ニ基キタル
追奪又ハ妨碍ニ対シテ其權利ノ完全ナル行使及ヒ自由ナル
収益ヲ担保スルノ責ニ任ス

担保ニ二箇ノ目的アリ即チ第三者ノ主張ニ対スル讓受人ノ
防禦シ及ヒ防止スル能ハサリシ妨碍若クハ追奪ノ償金はナ
リ

第三百九十六条 担保ハ有償名義ノ行為ニ付テハ反対ノ要約
ナキトキハ当然存立シ無償名義ノ行為ニ付テハ之ヲ諾約シ
タルニ非サレハ存立セス

然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル要約ノ為メニモ
讓渡人ハ自ら讓受人ニ妨碍ヲ加フルコトヲ得ス又第三者カ
讓渡人ノ授与シタル權利ニ依リテ讓受人ニ妨碍ヲ加ヘ又ハ
追奪ヲ為シタルトキハ讓渡人ハ無担保ニテ讓渡ヲ為シ且授
与カ讓渡ノ以前ニ在リト雖モ亦其担保ノ責ニ任ス

右担保ノ義務ハ譲渡人ノ相続人ニ移転ス

第三百九十七条 (略)

第三百九十八条 他人ト共ニ又ハ他人ノ為メニ義務ヲ負担スル者ハ保証、連帯及ヒ不可分ノ事項ニ於テ規定シタル如ク他人ノ免責ノ為メニ為シタル弁済ニ付キ担保ノ求償權ヲ有ス

又債權者ノ一人カ連帯又ハ不可分ノ義務ノ皆済ヲ受ケタルトキハ他ノ債權者ハ其ノ一人ノ取メタル利益ノ分配ニ付キ之ニ對シテ特別ノ訴權ヲ有セサルトキハ担保ノ訴權ヲ有ス

第三百九十九条 (略)

第四百条 担保人ヲ訴訟ニ参加セシメスシテ追奪ヲ受ケ又ハ他人ノ債務ヲ弁済シタル者ハ主タル訴權ヲ以テ担保ヲ要求スルコトヲ得但担保人カ前ノ請求ヲ却下セシムルニ有効ナル方法ヲ有セシコトヲ証スルトキハ此限ニ在ラス

第四節 義務ノ諸種ノ体裁

第四百一条 義務ハ左ノ場合ニ從ヒテ其体裁ヲ變ス

- 第一 義務ノ成立ノ單純、有期又ハ条件附ナルトキ
 - 第二 負担ノ目的ノ單一、選択又ハ任意ナルトキ
 - 第三 債權者又ハ債務者ノ単數又ハ複數ナルトキ
 - 第四 義務ノ性質又ハ其履行ノ可分又ハ不可分ナルトキ
- 義務ハ其体裁ノ變スルニ從ヒテ其効力モ亦變ス
- 連帯ノ効力及ヒ合意上ノ不可分ノ効力ハ債權担保編ニ之ヲ

規定ス

第一款 成立ノ單純、有期又ハ条件附ナル義務

第四百二条 (略)

第四百四条 債務者ハ期限ノ利益ヲ拋棄シテ満期前ニ其義務ヲ履行スルコトヲ得但要約ニ因リ又ハ事情ニ因リテ当事者双方ノ利益又ハ債權者ノミニ利益ノ為メニ期限ヲ定メタル証拠アルトキハ此限ニ在ラス

債權者ノミニ利益ノ為メニ期限ヲ定メタル場合ニ於テハ債權者モ亦其期限ヲ拋棄スルコトヲ得

當事者カ錯誤ニ因リテ満期前ニ弁済シタル場合ニ於テハ第三百六十六条ノ規定ニ從フ

第四百五条 債務者ハ左ノ場合ニ於テハ權利上ノ期限ノ利益ヲ失フ

- 第一 債務者カ破産シ又ハ顯然無資力ト為リタルトキ
 - 第二 債務者カ財産ノ多分ヲ讓渡シ又ハ其多分カ他ノ債權者ノ差押ヲ受ケタルトキ
 - 第三 債務者カ其供シタル特別ノ担保ヲ毀滅シ若クハ減少シ又ハ其予約シタル担保ヲ供セサルトキ
 - 第四 債務者カ填補利息ヲ払ハサルトキ
- 第四百六条 權利上ノ期限ノ有無ヲ問ハス又執行力ヲ有スル証書アル場合ト雖モ債務者カ不幸且善意ニシテ債權者カ猶予ノ為メ確實ノ損害ヲ受ケサル可キトキハ裁判所ハ債務者

ニ相応ナル恩恵上ノ期間ヲ許与スルコトヲ得

又裁判所ハ右ト同一ナル条件ニ從ヒテ債務ノ一分ツツノ履行ヲ許スコトヲ得

右ニ反スル要約ハ總テ無効ナリ

第四百七条 恩恵上ノ期間ヲ得タル債務者ハ第四百五条ニ定メタル原因ニ由リテ之ヲ失フノ外尚ホ左ノ場合ニ於テモ之ヲ失フ

第一 債務者カ逃亡シ又ハ住所ヲ去リテ債権者ニ其居所ヲ隠秘スルトキ

第二 債務者カ一年以上ノ禁錮ノ刑ヲ受ケタルトキ

第三 債務者カ言渡ヲ受ケタル条件ノ一ヲ行ハサルトキ

第四 債務者カ法律上ノ相殺ヲ為シ得ヘキ場合ニ於テ自ラ其債権者ノ債権者ト為リタルトキ

恩恵上ノ期間ハ裁判所ニ於テ更ニ之ヲ延フルコトヲ得ス

第四百八条 当事者又ハ法律カ義務ノ發生又ハ消滅ヲ未來且不确定ノ事件ノ有無ニ繫ラシムルトキハ其義務ハ条件附ナリ此条件ハ第一ノ場合ニ於テハ停止ニシテ第二ノ場合ニ於テハ解除ナリ

物権モ亦主タルト從タルトヲ問ハス之ヲ停止又ハ解除ノ条件ニ繫ラシムルコトヲ得

第四百九条 停止条件ノ成就スルトキハ合意ノ日ニ遡リテ其効ヲ生ス

解除条件ノ成就スルトキハ当事者ヲシテ合意前ノ各自ノ地位ニ復セシム

第四百十条 第四百十三条 (略)

第四百十四条 条件カ偶然ナルトキ又ハ其全部若クハ一分カ要約者ノ随意ナルトキ諾約者カ其成就ヲ妨ケタルニ於テハ其条件ハ之ヲ成就シタルモノト看做ス

第四百十五条 条件カ全ク当事者ノ一方ノ随意ナルトキハ他ノ一方ハ其成否ヲ決ス可キ或ル期間ヲ定メント裁判所ニ請求スルコトヲ得

第四百十六条 有的条件ノ為メ当事者又ハ裁判所カ或ル期間ヲ定メタル場合ニ於テ事件カ到来セシテ此期間ヲ經過シタルトキハ其条件ハ之ヲ成就セサルモノト看做ス条件ノ成否ノ為メ期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス事件ノ到来セサルコトノ確実ト為リタルトキモ亦同シ

無的条件ノ為メ或ル期間ヲ定メタル場合ニ於テ事件カ到来セシテ此期間ヲ經過シタルトキハ其条件ハ之ヲ成就シタルモノト看做ス又其期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス事件ノ到来セサルコトノ確実ト為リタルトキモ亦同シ

右孰レノ場合ニ於テモ裁判所ハ当事者ノ定メタル期間ヲ延フルコトヲ得ス

第四百十七条 当事者ノ一方又ハ双方カ条件ノ成就又ハ不成就ノ前ニ死亡シタルトキハ合意ノ効力ハ其相続人ニ對シ働

方又ハ受方ニテ存在ス但条件カ其性質ニ因リ又ハ当事者ノ意思ニ因リテ要約者又ハ諾約者ノ一身ノミニ附着シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十八條 条件カ如何様ニ成就ス可キヤ又如何ナル時ニ成就シ又ハ成就セスト看做サル可キヤヲ知ルコトハ当事者ノ明示又ハ黙示ノ意思ニ從ヒテ之ヲ決ス其条件ノ一分ノ成就ヨリ生ス可キ効力ニ付テモ亦同シ

第四百十九條 諾約シ又ハ讓渡シタル物カ諾約者又ハ讓渡人ノ過失ナクシテ停止条件ノ成就前ニ其価額ノ全部ヲ喪失シ又ハ其過半ノ毀損ヲ受ケタルトキハ合意ハ之ヲ成立セスト看做シ且孰レノ方ヨリ何等ノ要求ヲモ為スコトヲ得ス

之ニ反シ解除条件ヲ以テ諾約シ又ハ讓渡シタルトキハ右同
一ノ喪失又ハ毀損ハ要約者又ハ讓受人ノ權利確定シテ其負担ニ帰シ且何等ノ返還ヲモ要求スルコトヲ得ス

前二項ノ場合ニ於テ喪失又ハ毀損カ価額ノ半ヲ超エサルトキハ条件ノ成就ハ合意ノ効力ヲ生ス

第四百二十條 当事者ノ一方カ喪失又ハ毀損ノ責ニ任ス可キトキハ他ノ一方ハ自己ノ選択ヲ以テ或ハ損失ノ償金ト共ニ合意ノ履行ヲ請求シ或ハ損害ノ賠償ト共ニ其解除ヲ請求スルコトヲ得

第四百二十一條 凡ソ双務契約ニハ当事者ノ一方カ義務ヲ完全ニ履行セサル場合ニ於テ義務ヲ履行シ又ハ履行ノ言込ヲ

為セル他ノ一方ノ利益ノ為メ常ニ解除条件ヲ包含ス
此場合ニ於テ解除ハ当然行ハレス損害ヲ受ケタル一方ヨリ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス然レトモ裁判所ハ第四百六條ニ從ヒ他ノ一方ニ恩恵上ノ期間ヲ許スルコトヲ得

第四百二十二條 当事者ハ前條ノ解除ヲ行ハサル旨ヲ明約スルコトヲ得

又当事者ハ履行ノ遲滞ニ付セラレタル一方ニ對シテ解除ノ当然行ハル可キ旨ヲ明約スルコトヲ得然レトモ遲滞ニ付セラレタル一方ハ自己ニ對シテ他ノ一方カ其解除ヲ申立ツルニ非サレハ自己ヨリ之ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四百二十三條 不履行ノ為メニ損害ヲ受ケタル当事者ハ黙示ノ解除ノ場合ニ於テ未タ之ヲ裁判上ニテ請求セス又ハ明示ノ解除ノ場合ニ於テ未タ之ヲ援用スル旨ヲ述ヘサル間ハ其解除ヲ拋棄スルコトヲ得

第四百二十四條 裁判上ニテ解除ヲ請求シ又ハ当然行ハレタル解除ヲ援用スル当事者ハ其受ケタル損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第四百二十五條 当事者ハ其權利カ停止条件ニ繫リ又ハ其訴權カ權利上若クハ恩恵上ノ期間ノ為メニ阻止ヲ受クルト雖モ其間ニ於テ本法及ヒ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ自己ノ權利ノ保存処分ヲ為スコトヲ得

第四百二十六條 売買契約ニ於テ特ニ慣用スル随意ノ停止又

ハ解除ノ条件ニ付テハ財産取得編第三十五条乃至第三十八条ノ規定ニ從フ

第二款 負担ノ目的ノ単一、選択又ハ任意ナル義務

第四百二十七条 義務カ一箇若クハ数箇ノ特定物又ハ定量物或ハ物ノ聚集、財産ノ包括ヲ目的トスルトキハ其義務ハ単一ナリ

又義務カ同時又ハ順次ニ各別ナル数箇ノ供与ヲ目的トスル場合ト雖モ唯一又ハ連繫ノ合意ヲ以テ其供与ヲ負担シタルトキハ尚ホ其義務ハ之ヲ単一ナリト看做ス

右孰レノ場合ニ於テモ債務者ハ負担シタル總テノ物ヲ供与スルニ非サレハ其義務ヲ免カルコトヲ得ス

第四百二十八条 義務カ各別ナル二箇又ハ数箇ノ目的ヲ有スルモ債務者カ其中ノ一箇又ハ数箇ノ供与ヲ為スニ因リテ義務ヲ免カル可キトキハ其義務ハ選択ナリ

供与ス可キ物ノ選択ハ債務者ニ属ス但其選択ヲ債権者ニ許与シタルトキハ此限ニ在ラス

然レトモ債務者ハ選択ニテ負担シタル数箇ノ物ノ各ノ一分ヲ受クルコトヲ債権者ニ強ヒ又債権者ハ其各ノ一分ヲ与フルコトヲ債務者ニ強フルコトヲ得ス

第四百二十九条 (略)

第四百三十条 選択ヲ有スル当事者カ数人ノ相統人ヲ遺シテ

死亡シタルトキハ其相統人ハ不可分義務ニ関シ規定シタル如ク唯一ノ選択ヲ行フ為メ協合スルコトヲ要ス

債務者カ実物ノ提供ヲ為シ又ハ債権者カ合式ノ請求ヲ為シテ一旦有効ニ行フタル選択ハ他ノ当事者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ言消スコトヲ得ス

第四百三十一条 選択カ債務者ニ属スル場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ其過失ニ因リテ滅失シタルトキハ義務ハ残ル所ノ物ニ存シ債務者ハ滅失シタル物ノ価金ヲ与ヘテ其義務ヲ免カルコトヲ得ス

二箇ノ物カ債務者ノ過失ニ因リテ順次ニ滅失シタルトキハ債務者ハ後ニ滅失シタル物ノ価金ヲ負担ス

又二箇ノ物カ同時ニ滅失シ債務者カ其二箇又ハ一箇ニ對シテ過失アリタルトキハ選択ハ債権者ニ移転シ之ヲシテ一箇ノ物ノ価金ヲ得セシム

第四百三十二条 同上ノ場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ債権者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カル但債務者ハ自己ノ選択ヲ以テ残ル所ノ物ヲ与ヘ滅失シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ共ニ債権者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ自己ノ選択ヲ以テ一箇ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ一ハ債権者ノ過失ニ因リ一ハ意外ノ事又ハ不可

抗力ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カレ債権者ニ対シテ償金ヲ要求スルコトヲ得ス

第四百三十三条 (略)

第四百三十四条 同上ノ場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ債権者ノ

過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カル

二箇ノ物カ共ニ債権者ノ過失ニ因リテ同時ニ滅失シタルト

キハ選択ハ債務者ニ移転シ之ヲシテ一箇ノ物ノ価金ヲ得セ

シム

二箇ノ物カ一ハ債権者ノ過失ニ因リ一ハ意外ノ事又ハ不可

抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カレ債権

者ニ対シテ償金ヲ要求スルコトヲ得ス

第四百三十五条 前数条ノ規定ニ從ヒテ選択ノ義務カ一箇ノ

物ニ帰着シタルトキ又ハ其權利ヲ有スル当事者カ選択ヲ為

シタルトキハ其義務ハ停止条件ノ義務ニ関シ第四百九条ニ

規定シタル如ク既往ニ遡リテ効ヲ生ス

第四百三十六条 債務者カ一定ノ物ヲ主トシテ負担スルモ他

ノ物ヲ与ヘテ義務ヲ免カルノ権能ヲ有スルトキハ其義務ハ

任意ナリ

主トシテ負担スル物ヲ与フルノ義務ハ任意ニテ負担スル物

ノ弁済ヲ以テ解除スル条件ニ繋カルモノト看做ス

主トシテ負担スル物カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ滅失

シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カル

主トシテ負担スル物カ債務者ノ過失ニ因リテ滅失シタルト
キハ債務者ハ其価金ノ償還及ヒ損害ノ賠償ニ任ス然レトモ
債務者ハ任意ニテ負担スル物ヲ与ヘテ義務ヲ免カルノ権能
ヲ有ス

二箇ノ物ノ一カ債権者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債

務者ハ其免責ヲ申立テ又ハ残余所ノ物ヲ与ヘテ滅失シタル

物ノ価金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ共ニ債権者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債

務者ハ義務ヲ免カレ且自己ノ選択ヲ以テ一箇ノ物ノ価金ヲ

要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リ一ハ債権者ノ

過失ニ因リテ同時ニ滅失シ其過失カ孰レノ物ノ上ニ存シタ

ルヤヲ知り得サルトキハ債務者ハ義務ヲ免カレ且任意ニテ

負担シタル物ノ価金ヲ要求スルコトヲ得

第三款 債権者及ヒ債務者ノ単数又ハ複数ナル義

務

第四百三十七条 債権者及ヒ債務者カ各一人ナルトキハ其義

務ハ単数ナリ

債権者又ハ債務者カ初ヨリ数人ナルトキ又ハ当事者カ数人

ノ相続人ヲ遺シテ死亡シタルニ因リテ債権者又ハ債務者カ

数人ナルトキハ其義務ハ複数ナリ

複数ノ義務ニハ連合ノモノ有リ連帶ノモノ有リ全部ノモノ

有り不可分ノモノ有り

第四百三十八条 連合ノ義務ニ於テハ次款ニ定ムル如ク各債権者又ハ各債務者ハ自己ノ部分外ニ履行ヲ求ムルコトヲ得ス又訴追ヲ受クルコト無シ

連帯ノ義務ニ於テハ各債権者又ハ各債務者ハ自己ノ名ヲ以テ自己ノ部分ノ為メニスルト他人ノ名ヲ以テ他人ノ部分ノ為メニスルトヲ問ハス全部ニ付キ履行ヲ求ムルコトヲ得又訴追ヲ受クルコト有り但担保訴権ニ因レル相互ノ求償權ヲ妨ケス

第四款 性質又ハ履行ノ可分又ハ不可分ナル義務第四百三十九条ノ第四百四十条 (略)

第四百四十一条 債権者又ハ債務者ノ死亡シタル場合ニ於テ単數又ハ連合ノ義務ハ各相続人カ死亡者ヲ代表スル部分ニ付キ働方又ハ受方ニテ其各自ノ間ニ可分ナリ

連帯ノ義務モ亦當事者ノ相続人ノ間ニ於テハ可分ナリ第四百四十二条 複數ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ債権者又ハ債務者及ヒ其相続人ノ間ニ不可分ナリ

第一 負担スル目的物ノ性質ニ因リテ一分ノ履行カ形体上及ヒ權利上不能ナルトキ

第二 義務カ性質ニ因リテ可分ナルモ當事者ノ明示ノ意思又ハ其期望シタル目途其他事情ヨリ見ハルル意思カ一分ノ履行ヲ許ササルトキ

民法成立史一斑(六)

第四百四十三条 義務ハ其性質ニ因リテ可分ナルモ左ノ場合

ニ於テハ尚ホ當事者ノ意思ニ因リ受方ノミニテ不可分ナリ

第一 債務者ノ一人ノ処分權内ニ在ル特定物ノ引渡ニ関スルトキ

第二 債務者ノ一人カ債務ノ設定名義ニ因リテ独り履行ニ任シタルトキ

右第一ノ場合ニ於テ數人ノ債権者アルトキハ其一人ノ債務者ハ此數債権者ニ対シテ同時ニ義務ヲ免カルル為メ其數債権者ノ訴訟参加ヲ要求スルコトヲ得

第四百四十四条 不可分ハ性質ニ因リテ可分ナル債務ノ履行ノ担保ノ為メ連帯ニ併合シ又ハ併合セスシテ之ヲ要約スルコトヲ得

第四百四十五条 債権者ハ一人ニテ不可分債務ノ履行ヲ得タルトキハ他ノ債権者ノ權利ノ限度ニ応シテ之ニ其利益ヲ分与スルコトヲ要ス

又債務者ハ一人ニテ義務ヲ履行シタルトキハ義務ノ原因ニ從ヒ又ハ從來相互ノ關係ニ從ヒテ他ノ債務者ノ分担ス可キ部分ニ付キ之ニ対シテ担保ノ求償權ヲ有ス

第四百四十六条 債権者ノ一人ハ要約シタル如ク弁済ヲ受クルニ非サレハ他ノ債権者ノ權利ヲ減少シ又ハ消滅セシムルコトヲ得ス

債権者ノ一人カ総債務者若クハ其一人ノ義務解脱ヲ主旨ト

三〇九

スル更改、免除其他ノ合意ヲ為シタルモ又ハ其一人ノ債権者ニ対シテ適法ナル相殺ノ原因ノ存スルモ他ノ債権者ハ尚ホ債務ノ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得然レトモ債権者ハ此一人ノ債権者カ其權利ヲ失ハサリシナラハ第五百一条第四項、第五百十四条第二項、第五百二十条第三項第四項ノ規定ニ從ヒ其一人ノ債権者二分与ス可キ利益ニ付キ訴追ヲ受ケタル債務者ニ対シテ計算ヲ為ス

第四百四十七条 〔略。成案四四六条と同一〕

第四百四十八条 債務者ノ一人ハ他ノ債務者ノ負担ヲ加重スルコトヲ得ス又債務者ノ一人ノ付遲滞ハ之ヲ以テ他ノ債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

然レトモ債務ノ追認其他債務者ノ一人ニ對抗スルコトヲ得ヘキ時効ノ中断又ハ停止ノ原因ハ之ヲ以テ他ノ債務者ニ對抗スルコトヲ得

第四百四十九条 〔略。成案四四八条と同一〕

第四百五十条 不可分義務ノ履行ノ為メ訴ヲ受ケタル債務者ハ若シ己レト共ニ言渡ヲ受ケシム可キトキハ之ヲ受ケシムルコトニ付キ他ノ債務者ヲ訴訟ニ参加セシムル為メ及ヒ之ニ対スル自己ノ求償ヲ裁判セシムル為メ期間ヲ請求スルコトヲ得

第三章 義務ノ消滅

第四百五十一条 義務ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

- 第一 弁済
 - 第二 更改
 - 第三 合意ノ上ノ免除
 - 第四 相殺
 - 第五 混同
 - 第六 履行ノ不能
 - 第七 銷除
 - 第八 廃罷及ヒ解除
- 其他義務ハ免責時効ノ条件ノ具備スルトキハ之ヲ消滅シタルモノト看做ス

第一節 弁済

第四百五十二条 弁済ハ義務ノ本旨ニ從フノ履行ナリ

弁済ハ下ノ第一款及ヒ第四款ニ記載シタル區別ニ從ヒテ単純ナル有リ代位ナル有リ

數箇ノ債務アリテ只一箇ノ弁済ヲ為ストキハ第二款ニ從ヒテ債務ノ一箇又ハ數箇ニ付キ弁済ノ充當ヲ為ス

債権者カ弁済ヲ受クルコト能ハス又ハ欲セザルトキハ債務者ハ第三款ニ記載シタル如ク提供及ヒ供託ノ方法ヲ以テ自ラ義務ヲ免カルコトヲ得

債権者カ債権者ニ対シテ自己ノ財産ヲ委任スルコトヲ得ル場合ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

第一款 單純ノ弁済

第四百五十三條 濟^{つぎ}弁ハ債務者又ハ共同債務者ノ一人ヨリ有

効ニ之ヲ為スノ外尚ホ保証人又ハ抵当財産ヲ所持スル第三者ノ如キ附隨ノ義務者ヨリ有効ニ之ヲ為スコトヲ得

又弁済ハ利害ノ關係ナキ第三者ヨリ或ハ債務者ノ名ヲ以テ或ハ自己ノ名ヲ以テ之ヲ為スコトヲ得

第四百五十四條 利害ノ關係ヲ有スルト否トヲ問ハス第三者ノ為シタル弁済ノ有効ナル為メニハ債權者ノ承諾ヲ必要トセス但作為ノ義務ニ關シ債權者カ特ニ債務者ノ一身ニ着眼シタルトキハ此限ニ在ラス

右同一ノ場合ニ於テハ債務者ノ承諾モ亦之ヲ必要トセス但利害ノ關係ヲ有セサル第三者ノ弁済ニ付テハ債務者及ヒ債權者ノ承諾ナキトキハ其弁済ハ成立セス

第四百五十五條 代理ノ委任ヲ受ケスシテ弁済ヲ為シタル第三者ハ弁済ノ為メ債務者ニ得セシメタル利益ノ限度ニ応シ之ニ對シテ求償權ヲ有ス但法律又ハ合意ニ依リテ債權者ノ權利ニ代位スル場合ヲ妨ケス

第四百五十六條 第四百五十七條 (略。成案四五五條 四五六條 同一)

第四百五十八條 眞ノ債權者ニ非サルモ債權ヲ占有セル者ニ為シタル弁済ハ債務者ノ善意ニ出テタルトキハ有効ナリ表見ナル相続人、其他ノ包括承繼人、記名債權ノ表見ナル讓受人及ヒ無記名証券ノ占有者ハ之ヲ債權ノ占有者ト看做

ス

第四百五十九條 (略。成案四五八條 同一)

第四百六十條 民事訴訟法ニ從ヒ正當ニ為シタル払渡差押ノ後債務者カ弁済ヲ為シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル損害ノ限度ニ於テ更ニ弁済ス可キヲ債務者ニ強要スルコトヲ得但弁済ヲ取^{つぎ}ケタル債權者ニ對スル債務者ノ求償權ヲ妨ケス

第四百六十一條 債權者ハ己レニ對シテ負擔シタル物ヨリ他ノ物ヲ弁済トシテ受取ルノ責ニ任セス他ノ物ノ價格カ高キトキト雖モ亦同シ

債務者ハ其負擔シタル物ヨリ他ノ物ヲ与フルノ責ニ任セス請求ヲ受ケタル物ノ價格カ低キトキト雖モ亦同シ
代替物ヲ目的トセル債務ニ於テハ債務者ハ最良品ヲ与へ債權者ハ最悪品ヲ受取ルノ責ニ任セス

第四百六十二條 双方一致ニテ物ヲ金錢ニ、金錢ヲ物ニ又ハ或ル物ヲ他ノ物ニ代へ弁済トシテ之ヲ与へ若クハ諾約シタルトキハ原義務ヲ更改シタリト看做シ其行為ハ場合ニ因リテ売買又ハ交換ノ規則ニ從フ

第四百六十三條 特定物ノ債務者ハ引渡ヲ為ス可キ時ノ現狀ニテ其物ヲ引渡スニ因リテ義務ヲ免カル但条件附ノ義務ノ危険ニ關スル第四百十九條ノ規定ヲ妨ケス
債務者ノ費用ニテ物ヲ保存シ若クハ改良シ又ハ其過失若ク

ハ懈怠ニ因リテ之ヲ毀損シタルトキハ償金ハ上ノ第一章第二節第三節ニ從ヒテ当事者相互ニ之ヲ負担ス

第四百六十四条 金銭ヲ目的トセル債務ニ於テハ債務者ハ其選択ヲ以テ金若クハ銀ノ国貨又ハ強制通用ノ紙幣ヲ与ヘテ義務ヲ免カル

債務者ハ法律ニ依リ貨幣ノ名価又ハ其純分ノ割合ニ變更ラ生スルモ諾約シタル數額ヨリ多ク又ハ少ナク負担セス

本条ノ規則ニ違背スル合意ハ無効ナリ但第四百六十六条第二項ノ規定ヲ妨ケス

第四百六十五条 右ニ反シ弁済期ニ於テ諸種ノ貨幣ノ為替相場ヨリ生ス可キ相互ノ高低ノ差ハ債務者ノ選択スル法律上ノ貨幣ヲ以テスル平均価額ノ弁済ニ因リテ当事者ノ間ニ之ヲ填補スルノ合意ヲ為スコトヲ得

第四百六十六条 金貨又ハ銀貨ヲ以テ負担ノ金額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ独リ為替相場ノ損益ヲ受ケ法律上ノ他ノ貨幣ヲ以テ義務ヲ免カルコトヲ得

金貨又ハ銀貨ヲ以テ負担ノ金額ヲ弁済ス可キコトノ要約アリタルトキモ亦同シ

外国ノ貨幣ヲ以テ弁済ヲ為ス可キコトヲ合意シタルトキハ債務者ハ右ノ規定ニ從ヒ自己ノ選択スル法律上ノ貨幣ヲ以テ其外国ノ貨幣ノ価額ヲ弁済シテ義務ヲ免カルコトヲ得

第四百六十七条 (略) 成案四六六条と同一

第四百六十八条 当事者が^{ツク}済^クノ場所ヲ定メサリシトキハ弁済ハ債務者ノ住所ニ於テ之ヲ為ス但後ニ掲クル或ル契約ノ場合及ヒ第三百三十三条ニ從ヒテ特定物ノ引渡ニ関スル場合ハ此限ニ在ラス

自己ノ住所ニ於テ弁済ヲ受ク可キ当事者カ詐欺ナクシテ転住シタルトキハ弁済ハ其新住所ニ於テ之ヲ為ス但其当事者ハ為替相場ノ差額及ヒ人ノ往復若クハ物ノ運送ノ補足費用ヲ一方ノ当事者ニ払フコトヲ要ス

弁済ノ其他ノ費用ハ債務者之ヲ負担ス

第四百六十九条 (略)

第二款 弁済ノ充当

第四百七十条 一人ノ債権者ニ対シテ一樣ノ性質ナル數箇ノ債務ヲ有スル債務者カ總債務ヲ全消スルコトヲ得サル弁済ヲ為ストキハ債務者ハ弁済ノ時ニ於テ其孰レノ債務ニ充当セントスルノ意ヲ述ヘ且此充当ヲ受取証書ニ記入セシムルコトヲ得

然レトモ債務者ハ債権者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ債権者ノ利益ノ為メ定メタル期限ノ至ラサル債務ニ充当ヲ為シ又費用及ヒ利息ニ先タチテ元本ニ充当ヲ為シ又一分ツツ數箇ノ債務ニ充当ヲ為スコトヲ得ス

第四百七十一条 債務者カ有効ナル充当ヲ為ササルトキハ債権者ハ受取証書ニ於テ自由ニ弁済ノ充当ヲ為スコトヲ得但

財産取得編第三百二十五条ノ会社契約ニ関スル規定ヲ妨ケス
債務者カ異議ナク又ハ異議ヲ留メシテ受取証書ヲ受取り
タルトキハ債務者ハ自己ノ錯誤又ハ債権者ノ欺瞞アリタル
ニ非サレハ充當ヲ非難スルコトヲ得ス

第四百七十二條 [略]

第四百七十三條 上ノ規定ハ交互計算上ノ振込ニ之ヲ適用セ
ス此振込ハ振込人ノ貸方ニ之ヲ記入ス

第三款 弁済ノ提供及ヒ供託

第四百七十四條 債権者カ弁済ヲ受クルヲ欲セス又ハ之ヲ受
クル能ハサルトキハ債務者ハ左ノ區別ニ從ヒ提供及ヒ供託
ヲ為シテ義務ヲ免カルコトヲ得

第一 債務カ金錢ヲ目的トスルトキハ提供ハ貨幣ヲ提示
シテ之ヲ為スコトヲ要ス

第二 債務カ特定物ヲ目的トシ其存在スル場所ニ於テ引
渡サル可キトキハ債務者ハ其物ノ引取ノ為メ債権者ニ
催告ヲ為ス

第三 特定物ヲ債権者ノ住所其他ノ場所ニ於テ引渡ス可
クシテ其運送カ多費、困難又ハ危険ナルトキハ債務者
ハ合意ニ從ヒテ引渡ヲ即時ニ実行スルノ準備ヲ為シタ
ルコトヲ提供中ニ述フ定量物ニ関シテモ亦同シ

第四 債権者ノ立会又ハ参同ヲ要スル作為ノ義務ニ関シ
テハ債務者カ義務履行ノ準備ヲ為シタルコトヲ述フル

ヲ以テ足ル

第四百七十五條 右ノ外提供ハ弁済ノ有効ナル為メ上ニ定メ
タル条件ヲ具備スルニ非サレハ有効ナラス

第四百七十六條 [略]

第四百七十七條 債権者カ提供ヲ承諾セサルトキハ債務者ハ
供託ノ日マテニ債務ニ生シタル填補利息ト共ニ弁済ノ金額
ヲ供託所ニ供託スルコトヲ得

特定物又ハ定量物ニ付テハ債務者ハ其物ヲ供託ス可キ場所
ヲ指定スルコト及ヒ其管守者ヲ選任スルコトヲ裁判所ニ請
求ス

第四百七十八條 有効ニ為シタル供託ハ債務者ニ義務ヲ免カ
レシメ且債務者カ意外ノ事ニ任シタルトキト雖モ其物ノ危
険ヲ債権者ニ帰セシム

然レトモ債権者カ供託ヲ受諾セス又ハ其供託カ債務者ノ請
求ニテ既判力ヲ有スル判決ニ因リテ有効ト宣告セラレサル
間ハ債務者ハ其供託物ヲ引取ルコトヲ得

右ノ受諾又ハ判決アリタル後ト雖モ債務者ハ債権者ノ承諾
ヲ以テ供託物ヲ引取ルコトヲ得然レトモ共同債務者及ヒ保
証人ノ義務解脱ヲモ動産質権及ヒ抵当權ノ消滅ヲモ供託物
ニ付キ債権者ノ債権者カ為シタル払渡差押ヲモ妨礙スルコ
トヲ得ス

第四款 代位ノ弁済

第四百七十九條 代位ヲ以テ第三者ノ爲シタル弁済ハ債權者ニ對シテ債務者ニ義務ヲ免カレシメ且其債權及ヒ之ニ附着セル担保ト効力トヲ併セテ其第三者ニ移転ス但場合ニ從ヒテ第三者ノ有スル事務管理又ハ代理ノ訴權ヲ妨ケス
代位ハ下ノ區別ニ從ヒテ債權者若クハ債務者ヨリ之ヲ許シ又ハ法律ヲ以テ之ヲ付与ス

第四百八十條 債權者ノ許与シタル代位ハ受取証書ニ之ヲ明記スルニ非サレハ有効ナラス但第三者カ弁済ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルヤ否及ヒ自己ノ名又ハ債務者ノ名ニテ弁済スルヤ否ヲ區別スルコトヲ要セス

第四百八十一條 債務者ハ其債務ノ弁済ニ必要ナル金額又ハ有価物ヲ已レニ貸与シタル第三者ヲシテ債權者ノ承諾ナク其權利ニ代位セシムルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ借用証書ニハ其金額又ハ有価物ノ用方ヲ記載シ受取証書ニハ其出所ヲ記載ス

公正証書又ハ確定日附ノ証書ニ非サレハ他ノ第三者ニ對シテ右ノ行為ノ証トスルコトヲ許サス

然レトモ借用ト弁済トノ間ニ不相當ナル長キ時間ノ經過シタルトキハ裁判所ハ代位ヲ不成立ト宣告スルコトヲ得

第四百八十二條 代位ハ左ノ者ノ利益ノ爲メ當然成立ス

第一 或ハ自身ニテ他人ト共ニ或ハ先取特權又ハ抵當權ヲ負擔スル財産ノ第三所持者トシテ他人ノ爲メニ義務

ヲ負擔シタルニ因リ其義務ヲ弁済スルニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者

第二 或ハ抵當訴權ヲ予防スル爲メ或ハ不動産ノ差押又ハ契約解除ノ請求ヲ止ムル爲メ他ノ債權者ニ弁済シタル債權者

第三 自己ノ財産ヲ以テ相続ノ債務ノ全部又ハ一分ヲ弁済シタル享益相続人又ハ善意ナル表見ノ相続人

第四百八十三條 前三條ニ依リテ代位シタル者ハ債權ノ効力又ハ担保トシテ債權者ニ屬セシ總テノ對人及ヒ物上ノ權利及ヒ訴權ヲ行フコトヲ得但左ニ掲クル場合ヲ例外トス

第一 當事者カ代位者ニ移轉セシ權利及ヒ訴權ヲ制限シタルトキハ其制限ニ從フ

第二 第三所持者カ債務ヲ弁済シタルトキハ保証人ニ對シテ代位セス

第三 保証人ハ債務ヲ弁済シ債權担保編第三十六條ノ規定ニ從ヒタルトキニ非サレハ第三所持者ニ對シテ代位セス

第四 一箇ノ債務ノ抵當ト為リタル數箇ノ不動産カ各別ニ數箇ノ第三所持者ノ手ニ存スル場合ニ於テ其一人カ債務ヲ弁済シタルトキハ各不動産ノ価額ノ割合ニ応スルニ非サレハ他ノ第三所持者ニ對シテ代位ノ權ヲ行フコトヲ得ス

第五 互ニ担保人タル共同債務者ノ一人カ債務ヲ弁済シタルトキハ弁済者ハ他ノ債務者カ分担ス可キ債務ノ限度ニ応スルニ非サレハ其各自ニ対シテ代位セス

第四百八十四条ノ第四百八十六条 (略)

第四百八十七条 代位弁済ニ因リテ全部ノ弁済ヲ受ケタル債権者ハ債権ノ証書及ヒ質物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス債権者カ一分ノ弁済ノミヲ受ケタルトキハ要用ニ応シテ代位者ニ証書ヲ出示シ且質物ノ保存ニ注意スルヲ之ニ許スコトヲ要ス

第四百八十八条 代位弁済ノ有効、充當、提供及ヒ供託ニ付テハ前三款ノ規定ニ從フ

第二節 更改

第四百八十九条 更改即チ旧義務ノ新義務ニ変更スルコトハ左ノ四箇ノ方法ニ因リテ成ル

第一 当事者カ義務ノ新目的ヲ以テ旧目的ニ代フルノ合意ヲ為ストキ

第二 当事者カ義務ノ目的ヲ變セスシテ其名義ヲ變スルノ合意ヲ為ストキ

第三 新債務者カ旧債務者ニ替ハルトキ

第四百九十条 新債権者カ旧債権者ニ替ハルトキ
当事者カ期限、条件又ハ担保ノ加減ニ因リ又ハ履行ノ場所若クハ負担物ノ数量、品質ノ變更ニ因リテ単

ニ義務ノ体様ヲ變スルトキハ之ヲ更改ト為サス

商証券ヲ以テスル債務ノ弁済ハ其証券ニ債務ノ原因ヲ指示シタルトキハ更改ヲ成サス前米ノ債務ノ追認ハ其証券ニ執行式アルトキト雖モ亦同シ

第四百九十一条 債権者ハ原債権及ヒ其担保ヲ有償名義ニテ処分スルノ能力ヲ有スルニ非サレハ更改ヲ承諾スルコトヲ得ス

右規定ハ合意上、法律上又ハ裁判上ノ管理者及ヒ代理人ニ之ヲ適用ス

第四百九十二条 更改ノ意思ハ債権者ニ在テハ之ヲ推定セス明カニ証書又ハ事情ヨリ見ハルルコトヲ要ス

然レトモ同一ノ当事者間ニ於テ義務ノ更改アリタルヤ二箇ノ義務ノ共ニ存スルヤノ疑アルトキハ第三百六十条ニ依リテ債務者ノ利益ノ為メニ更改ノ意義ニ解釈ス

第四百九十三条 旧義務カ停止又ハ解除ノ条件附ナリシトキハ更改ハ同一ノ条件ニ從フモノトノ推定ヲ受ク

又新義務カ条件附ナルトキハ更改ハ停止条件ノ成就シ又ハ解除条件ノ成就セサルトキニ非サレハ成ラス

右孰レノ場合ニ於テモ当事者カ單純ナル更改ヲ為サント欲シタルノ証拠アルトキハ此限ニ在ラス

第四百九十四条 旧義務カ初ヨリ法律上成立セス又ハ法律ノ定ムル原因ニ由リテ消滅シ若クハ取消サレタルトキハ更改

ハ無効ニシテ新義務ハ成立セス

又新義務カ其成立及ヒ有効ニ要スル法律上ノ条件ヲ具備セサルトキハ旧義務ハ存立ス

右孰レノ場合ニ於テモ当事者カ自然義務ヲ法定義務ニ又ハ法定義務ヲ自然義務ニ変セント欲シタルノ証拠アルトキハ此限ニ在ラス

第四百九十五条ノ第四百九十六条 (略)

第四百九十七条 債権者カ明カニ第一ノ債務者ヲ免スルノ意思ヲ表セサルトキハ囑託ハ不完全ニシテ更改ハ行ハレス且債権者ハ第一第二ノ債務者ヲ連帯ニテ訴追スルコトヲ得
 第三者ノ随意干涉ノ場合ニ於テ債権者カ旧債務者ヲ免シタルトキハ除約ニ因ル更改行ハル之ニ及セル場合ニ於テハ単一ノ補約成リテ債権者ハ債務ノ全部ニ付キ第二ノ債務者ヲ得然レトモ此債務者ハ連帯ノ義務ニ任セス

第四百九十八条ノ第四百九十九条 (略)

第五百条 債権者カ第五百三条ニ定メタル如ク其債権ノ物上担保ヲ留保シ或ハ他人ヲ惠ム為メ或ハ他人ニ対スル債務ヲ免カルル為メ其人ニ囑託シテ自己ノ債務者ヨリ弁済ヲ受ケシムルトキハ其受囑託人ハ債権ノ譲渡ニ関スル第三百四十七条ノ規定ニ從フニ非サレハ第三者ニ対シテ其債権ヲ主張スルコトヲ得ス

第五百一条 債権者ト連帯債務者ノ一人又ハ不可分債務者ノ

一人トノ間ニ為シタル更改ハ他ノ債務者及ヒ保証人ヲシテ其義務ヲ免カレシム

然レトモ債権者カ右共同債務者及ヒ保証人ノ同意ヲ更改ノ条件ト為シタル場合ニ於テ共同債務者及ヒ保証人ノ之ヲ拒ムトキハ更改ハ成立セス

連帯債権者ノ一人ト為シタル更改ハ其債権者ノ部分ニ付テノミ債務者ヲシテ義務ヲ免カレシム

性質ニ因ル不可分債務ノ債権者ノ一人ト更改ヲ為シタルトキハ他ノ債権者ハ全部ニ付キ訴追ノ權利ヲ有ス但第四百四十六條ニ定メタル償金ヲ負担ス

第五百二条 (略)

第五百三条 旧債権ノ物上担保ハ新債権ニ移ラス但債権者之ヲ留保シタルトキハ此限ニ在ラス

此留保ハ共同債務者、保証人又ハ第三所持者ノ手ニ存スル担保負担ノ財産ニモ之ヲ行フコトヲ得

此留保ニ付テハ更改ノ相手方ノ承諾ノミヲ必要トス

右ノ場合ニ於テ財産ハ旧債務ノ限度ヲ超エテ担保ヲ負担セス

第三節 合意上ノ免除

第五百四条 債務ノ全部又ハ一分ニ付テノ合意上ノ免除ハ有償名義又ハ無償名義ニテ之ヲ為スコトヲ得

有償名義ノ免除ハ事情ニ從ヒテ代物弁済、更改、和解又ハ

解除ヲ成ス又無償名義ノ免除ハ贈与ヲ成ス然レトモ公式ノ特別規則ニ從フコトヲ要セス
協諾契約ヲ以テ破産シタル債務者ニ許与スル一分ノ免除ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第五百五条〔略〕

第五百六条 主タル債務者ニ為シタル債務ノ免除ハ保証人ヲシテ其義務ヲ免カレシム

連帯債務者ノ一人ニ為シタル債務ノ免除ハ他ノ債務者ヲシテ其義務ヲ免カレシム但債権者カ他ノ債務者ニ対シテ其權利ヲ留保シタル場合ハ此限ニ在ラス此場合ニ於テモ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ扣除スルコトヲ要ス

不可分債務者ノ一人ニ為シタル債務ノ免除ニ付テモ亦同シ然レトモ性質ニ因ル不可分債務ノ債権者カ他ノ債務者ニ対シテ其權利ヲ留保シタルトキハ債権者ハ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ扣除シ残余ノ部分ニ付キ其權利ヲ行フ

第五百七条〔略〕

第五百九条 共同債務者ノ一人ニ対シテ単ニ連帯又ハ合意上ノ不可分ノ免除アリタルトキハ其一人ヲシテ他ノ債務者ノ部分ヲ免カレシメ且他ノ債務者ヲシテ其一人ノ部分ヲ免カレシム

性質ニ因ル不可分ノミノ免除ニ付テハ債権者ハ債務者ノ各自ニ対シテ全部ノ要求ヲ為スノ權利ヲ失ハス但免除ヲ受ケ

タル債務者ノ負担ス可キ債額ヲ扣除スルコトヲ要ス
又債権者ハ免除ヲ受ケタル債務者ニ対シ全部ノ要求ヲ為スコトヲ得但他ノ債務者ノ負担ス可キ債額ヲ扣除スルコトヲ要ス

第五百十条 債権者ハ左ノ場合ニ於テハ債務者ノ一人ニ対シテ単ニ連帯又ハ合意上ノ不可分ヲ免除シタリトノ推定ヲ受

ク

第一 債権者カ担保ノ權利ヲ留保セスシテ債務者ノ一人ヨリ其債務ノ部分ナリト明言シタル金額又ハ有価物ヲ受取りタルトキ

第二 債権者カ担保ノ權利ヲ留保セスシテ債務者ノ一人ニ対シ其債務ノ部分ナリト稱シテ裁判上ノ請求ヲ為シタルニ其一人請求ニ承服シ又ハ弁済ヲ為ス可キ旨ノ言渡ヲ受ケタルトキ

第三 債権者カ異議ヲ留メシテ十ヶ年間引続キ債務者ノ一人ヨリ其負担ス可キ利息又ハ年金ノ部分ヲ受取りタルトキ

第五百十一条 保証人ノ一人ニ保証ノミヲ免除シタルトキハ

主タル債務者ハ其義務ヲ免カレス他ノ保証人ハ保証ノ免除ヲ受ケタル一人ノ部分ニ付キ其義務ヲ免カル然レトモ保証人ノ間ニ連帯ヲ為セル場合ニ於テ債権者カ第五百六条第二項ニ記載シタル如ク他ノ保証人ニ対シテ自己ノ權利ヲ留保

セサルトキハ他ノ保証人ヲシテ其義務ヲ免カレシム

第五百十二条 債権者ノ動産質又ハ抵当ノ抛棄ハ其債権ヲ減セス然レトモ連帯債務者又ハ保証人ハ其抛棄ニ因リテ此等ノ担保ニ於ケル代位ヲ妨ケラレタルカ為メ債権担保編第四十五条及ヒ第七十三条ニ依リ債権者ニ対シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

第五百十三条 〔略〕

第五百十四条 連帯債権者ノ一人ノ為シタル債務又ハ連帯ノミノ免除ハ単ニ其一人ノ部分ニ付キ之ヲ以テ他ノ債権者ニ對抗スルコトヲ得

債務カ性質ニ因ル不可分ナルトキハ債権者ノ一人ノ為シタル免除ハ他ノ債権者ヲ害スルコトヲ得ス他ノ債権者ハ第四百四十六條及ヒ第五百六條ノ規定ニ從ヒテ全債権ヲ行フ

第五百十五条 債権者カ債務者ノ義務ヲ記載シタル本証書ヲ任意ニテ債務者ニ交付シタルトキハ其証書ニ免除ノ旨ヲ附記セスト雖モ債権者ハ債務ノ免除ヲ為シタリトノ推定ヲ受ク但債権者ノ反対ノ意思ヲ証スルノ權利ヲ妨ケス

公正証書又ハ判決書ノ正本ノ任意ノ交付ハ其書類ニ執行式ヲ具備スルモ債務ノ免除ヲ推定セシムルニ足ラス但裁判所カ事情ニ從ヒテ其免除ヲ推測スルコトヲ妨ケス
債務者カ右ノ書類ヲ所持スルトキハ反対ノ証拠アルマテハ債権者ヨリ任意ノ交付アリタリトノ推定ヲ受ク

第五百十六條 債権者カ証書ノ全文又ハ債務者ノ署名其他緊

要ナル部分ヲ有意ニテ毀滅シ扯破シ又ハ抹消シタルトキハ前條ノ區別ニ從ヒテ任意ノ交付ニ準シ債務ノ免除アリタリト推定ス

右毀滅、扯破又ハ抹消ハ之ヲ為シタル当時其証書カ債権者ノ占有ニ係リシトキハ反対ノ証拠アルマテ債権者ノ所為又ハ其承諾ニ出テタリトノ推定ヲ受ク

第五百十七條 債務ノ免除ハ明示ナルト默示ナルト又直接ニ証スルト法律上推定スルトヲ問ハス反対ノ証拠アルマテ有償名義ニテ之ヲ為シタリトノ推定ヲ受ク

然レトモ互ニ授受スルノ能力ナキ者ノ間ニ於ケル免除ハ有償名義ニテ之ヲ為シタリトノ直接ノ証拠ヲ挙クルコトヲ要ス

第四節 相殺

第五百十八條 二人互ニ債権者タリ債務者タルトキハ下ノ條件及ヒ區別ニ從ヒテ法律上、任意上又ハ裁判上ノ相殺カ成立ス

相殺ハ二箇ノ債務ヲシテ其寡少ナル債務ノ數額ニ滿ツルマテ消滅セシム

第五百十九條 〔略。成案五二〇條と同一〕

第五百二十條 主タル債務者ハ自己ノ債務ト債権者カ保証人ニ対シテ負担スル債務トノ相殺ヲ以テ債権者ニ對抗スルコ

トヲ得ス然レトモ訴追ヲ受ケタル保証人ハ債権者カ主タル債権者又ハ自己ニ対シテ負担スル債務ノ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得

連帯債務者ハ債権者カ其連帯債務者ノ他ノ一人ニ対シ負担スル債務ニ関シテハ其一人ノ債務ノ部分ニ付テニ非サレハ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス然レトモ自己ノ權ニ基キ相殺ヲ以テ對抗ス可キトキハ全部ニ付キ之ヲ申立ツルコトヲ得

数人ノ連帯債権者アルトキ債務者ハ債権者ノ一人カ自己ニ対シテ負担スル債務ノ相殺ヲ以テ訴追者ニ對抗スルコトヲ得但債権担保編第七十八条ニ依リテ債権者ニ弁済ノ領受ヲ強要スルコトヲ得ヘキ場合ニ限ル

債務カ債務者ノ間又ハ債権者ノ間ニ於テ意思ニ因ル不可分ナルトキハ相殺ハ受方又ハ働方ノ連帯ニ於ケルト同一ノ方法ニ從フ又性質ニ因ル不可分ノ債務ナルトキハ第四百四十六條ノ規定ニ從フ

第五百二十一条 (略。成案五二二条と同一)

第五百二十二条 債務ノ成立、其目的ノ性質及ヒ分量カ確實ナルトキハ其債務ハ善意ニテ争ハルルトキト雖モ之ヲ明確ナリトス

第五百二十三条 裁判所ノ許シタル恩恵上ノ期間ハ相殺ノ妨ヲ為サス債務者ノ請求ニ因リ無償ニテ債権者ノ許シタ

ル期間ニ付テモ亦同シ

二箇ノ債務ノ一カ解除条件附ナルトキト雖モ相殺ハ行ハル但条件ノ成就シタルトキハ相殺ヲ解除ス

第五百二十四条 二箇ノ債務カ同一ノ場所ニ於テ又ハ同一ノ貨幣ヲ以テ弁済ス可キモノニ非サルトキト雖モ尚ホ相殺ハ行ハル但第一ノ場合ニ於テハ運送費又ハ為替料ヲ計算シ第二ノ場合ニ於テハ両替算ヲ計算スルコトヲ要ス

第五百二十五条 左ノ場合ニ於テハ法律上ノ相殺ハ行ハレス

第一 債務ノ一カ不正ニ他人ノ財産ヲ押取シタル原因ト為ストキ

第二 使用ヲ許セル寄託物ノ返還ニ関スルトキ

第三 債権ノ一カ差押フルコトヲ得サル有価物ヲ目的トスルトキ

第四 当事者ノ一方カ予メ相殺ノ利益ヲ拋棄シタルトキ又ハ債権者ト為ルニ当リ期望シタル目的カ相殺ノ為メ違スルコトヲ得サルトキ

第五百二十六条 債権ノ讓受人カ其讓受ヲ債務者ニ告知シタルノミニテハ債務者ハ讓渡人ニ対シテ從來有セル法律上ノ相殺ヲ以テ讓受人ニ對抗スルノ權利ヲ失ハス

債務者カ讓渡人ニ対シテ既ニ得タル法律上ノ相殺ノ權利ヲ留保セス讓渡ヲ受諾シタルトキハ債務者ハ讓受人ニ対シテ其權利ヲ申立ツルコトヲ得ス

右二箇ノ場合ニ於テ債務者カ相殺ヲ申立ツルコトヲ得サリシ金額又ハ有価物ヲ讓渡人ヲシテ自己ニ償還セシムルノ權利ヲ妨ケス

第五百二十七条 払渡差押ヲ受ケタル債務者ハ差押人ノ債務者即チ自己ノ債権者ニ対シテ差押後ニ取得シタル債権ノ相殺ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス

又相殺ノ從來ノ原因ニ付テモ払渡差押ヲ受ケタル債務者ハ民事訴訟法ニ掲ケタル方式及ヒ期間ニ從ヒテ其原因ヲ述ヘタルニ非サレハ之ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス

右孰レノ場合ニ於テモ払渡差押ヲ受ケタル債務者ハ差押ノ金額又ハ有価物ニ付キ自己ノ債権ノ弁済ヲ得ル為メ差押人ト共ニ配当ニ加入スルノ權利ヲ有ス

第五百二十八条 相殺ニ因リテ既ニ消滅シタル債務ヲ弁済シタル者ハ其錯誤ニ出テタルトキト雖モ不当利得ノ取戻訴権ノミヲ行フコトヲ得但次条ニ記載スル場合ハ此限ニ在ラス

第五百二十九条 前三条ニ掲ケタル場合ニ於テ相殺ニ因リ既ニ消滅シタル債務ヲ讓受人若クハ差押人ノ利益ノ為メ追認シ又ハ自己ノ債権者ニ弁済シタル者ハ自己ノ旧債権ヲ担保シタル保証、先取特權若クハ抵当ヲ利唱スルコトヲ得ス但既ニ行ハレタル相殺ヲ知ラサル正當ノ原因アリシコトヲ証スルトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テ旧債権ハ其資格ヲ以テ担保ト共ニ復旧ス

第五百三十条 第五百三十一条（略。成案五三一条ノ五三二条と同一）

第五百三十二条 当事者ノ一方カ他ノ一方ニ対シテ法律上又ハ裁判上ノ相殺ニ服スル數箇ノ債務ヲ有スルトキハ其債務ヲ相殺スルノ順序ハ第四百七十二條ニ掲ケタル弁済ノ法律上ノ充當ノ規定ニ從フ

任意上又ハ合意上ノ相殺ノ充當ハ第四百七十条及ヒ第四百七十一条ノ規定又ハ當事者ノ協議ニ從フ

第五節 混同

第五百三十三条 一箇ノ義務ノ債権者タリ及ヒ債務者タルノ分限カ相統其他ノ名義ニテ一人ニ併合シタルトキハ義務ハ混同ニ因リテ消滅ス

右ノ混同カ從來ノ適法ノ原因ニ由リテ解除、銷除又ハ廃罷ヲ受ケタルトキハ義務ハ之ヲ消滅セサリシモノト看做ス

第五百三十四条 （略。成案五三五条と同一）

第五百三十五条 義務カ性質ニ因ル不可分ナルトキハ債権者ノ一人ト債務者ノ一人トノ間ノ混同ハ他ノ者ニ関シテ其義務ヲ全存セシム然レトモ其混同ヲ得タル者ハ第四百四十六条ニ從ヒテ一分ノ價金ヲ供シ又ハ受取ルニ非サレハ全部ニ付キ訴追スルコトヲ得ス又ハ訴追セララルコト無シ

第五百三十六条 （略。成案五三七条と同一）

第五百三十七条 保証人カ債権者ニ相統シ又ハ債権者カ保証

人ニ相統シタルトキハ保証ハ其附從ノモノト共ニ消滅ス
債務者カ保証人ニ相統シ又ハ保証人カ債務者ニ相統シタル
トキハ債権者ハ主タル債務者、共同保証人若クハ保証人ノ
担保人ニ対シ及ヒ保証ニ附着シタル動産質若クハ抵当ニ付
キ其權利ニ変更ヲ受クルコト無シ

第六節 履行ノ不能

第五百三十八條 義務カ特定物ノ引渡ヲ目的トシタル場合ニ
於テ其目的物カ債務者ノ過失ナク且遲滞ニ在ル前ニ滅失シ
紛失シ又ハ不融通物ト為リタルトキハ其義務ハ履行ノ不能
ニ因リテ消滅ス若シ義務カ數箇ノ定マリタル物ノ中ノ若干
ヲ目的トシタル場合ニ於テ其一箇ノ引渡ニテモ不能ト為リ
タルトキハ亦同シ

作為又ハ不作為ノ義務ハ其履行カ右ト同一ノ条件ヲ以テ不
能ト為リタルトキハ消滅ス

第五百三十九條 債務者カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ル危険
及ヒ災害ヲ担任シ若クハ第三百三十六條及ヒ第三百八十四
條ニ從ヒテ遲滞ニ在ルトキハ其債務者ハ前條ノ原因ニ由ル
モ其義務ヲ免カレス

第五百四十條 債務者ハ自己ノ申立ツル意外ノ事又ハ不可抗
力ヲ証スルノ責ニ任ス

債務者カ第三百三十五條第二項ニ依リテ其義務ヲ免カル為
メ其物カ債権者ノ方ニ在リト雖モ亦滅失ス可キコトヲ申立

ツルトキハ其証拠ヲ拳クルコトヲ要ス
第五百四十一條〜第五百四十二條 (略) 成案五四二條〜五
四三條と同一)

第七節 銷除

第五百四十三條 (略) 成案五四四條と同一)

第五百四十四條 右時効ノ期間ハ強暴ニ付テハ其強暴ノ止ム
マテ錯誤ニ付テハ其錯誤ヲ覺知スルマテ詐欺ニ付テハ其詐
欺ヲ発見スルマテ無能力ニ付テハ其無能力ノ止ムマテ之ヲ
停止ス

然レトモ瘋癲者又ハ喪心ニ因ル禁治産者ノ合意ニ付テハ右
時効ハ其者カ能力ヲ復シタル後其承諾シタル行為ノ要旨ノ
通知ヲ受ケ又ハ其行為ヲ了知シタル時ヨリ經過ヲ始ム

法律上治産ヲ禁セラレタル処刑人ニ付テハ銷除ノ訴權及ヒ
抗弁ハ自他ノ為メ其刑期滿了後ニ非サレハ時効ニ罹ラス
此他免責時効ノ停止及ヒ中断ノ通常ノ原因ニ関スル規定ハ
右時効ニ之ヲ適用ス

第五百四十五條 銷除訴權ヲ有セル人カ前條ノ期間ノ滿了前
ニ死亡シタルトキハ訴權ハ其相続人ニ移転ス

右ノ場合ニ於テ期間カ死亡者ニ対シテ未タ經過ヲ始メサリ
シトキハ相続人ノ訴權ハ其相続權ノ發開ノ時ヨリ時効ニ罹
リ既ニ經過ヲ始メタルトキハ其殘期ヲ以テ時効ニ罹ル

第五百四十六條 未成年者又ハ禁治産者ノ財産ニ関シ後見人

ノ為シタル合意及ヒ行為ハ無能力者ノ利益ノ為メ法律ノ定メタル方式及ヒ条件ヲ遵守セザリシトキハ之ヲ銷除スルコトヲ得

未成年者ノ行為ニ付テハ之ニ要スル方式ナキトキ浪費者ノ行為ニ付テハ裁判上ノ輔佐人ノ輔佐ナキトキ及ヒ禁治産者ノ行為ニ付テハ何等ノ場合ヲ問ハス亦其行為ヲ銷除スルコトヲ得

右規定ハ其他ノ原因ニ由リテ有能力者ノ為メニ許与セル銷除ノ訴權ヲ妨ケス

第五百四十七條 未成年者一人ニテ特別ナル方式又ハ条件ノ必要ナキ合意又ハ行為ヲ承諾シタルトキハ銷除訴權ハ其未成年者ノ為メ欠損アルトキニ非サレハ之ヲ受理セス

法律カ保管人ノ輔佐ノミヲ要シタルトキ其輔佐ナクシテ既脱後見ノ未成年者ノ為シタル右ト同一ナル性質ノ行為モ亦欠損ニ因ルニ非サレハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ス

欠損ハ行為ノ時ニ於テ之ヲ見積リ其偶然ノ事件ヨリ生スルモノハ之ヲ算入セス

第五百四十八條 未成年者カ成年ナリト陳述シタルノミニテハ其無能力又ハ欠損ニ因ル銷除訴權ヲ妨ケス但其成年タルコトヲ信セシムル為メ詐術ヲ用キタルトキハ此限ニ在ラス此他ノ無能力者ノ虚偽ノ陳述ニ付テモ亦同シ

第五百四十九條 商業又ハ工業ヲ営ムノ許可ヲ得タル既脱後

見ノ未成年者ハ其營業ニ関スル行為ニ付テハ之ヲ成年者ト看做ス

第五百五十條 婦ノ行為ハ配偶者ノ相互ノ權利及ヒ本文ニ関シ本法ニ定メタル場合ニ非サレハ婦又ハ夫ノ請求ニ因リテ之ヲ銷除スルコトヲ得ス

第五百五十一條 承諾ノ瑕疵ニ因リテ行為ノ銷除ヲ得タル成年者ハ其行為ニ因リテ既ニ受取リタル總テノ物ヲ返還スルノ責ニ任ス

無能力者ハ銷除ヲ得タル行為ニ因リテ仍ホ現ニ己レヲ利スル物ノミヲ返還スルノ責ニ任ス

右返還ヲ要求スル訴權ハ通常ノ時効ニ因ルニ非サレハ消滅セス

第五百五十二條 (略。成案五五三條と同一)

第五百五十三條 銷除訴權ハ第五百四十三條乃至第五百四十五條ニ定メタル時効ニ因リテ消滅スルノ外第五百四十四條

ニ從ヒテ時効ノ開始スル後利害關係人カ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ヲ明示又ハ默示ニテ認諾シタルトキハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五百五十四條 明示ノ認諾ハ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ノ要旨及ヒ其銷除ノ原因ヲ記シ且銷除訴權ノ拋棄ヲ述ヘタル明白ナル証書ニ因リテ成ル

銷除ノ數箇ノ原因アルトキハ明示ノ認諾ハ特ニ証書ニ記シ

タル原因ノミヲ除去ス

第五百五十五条 黙示ノ認諾ハ左ノ行為ニ因リテ成ル

第一 合意ノ全部若クハ一分ノ任意ノ履行

第二 異議ヲ為サス又ハ異議ヲ留メサル強制ノ執行

第三 更改

第四 物上又ハ对人ノ担保ノ任意ノ供与

黙示ノ認諾ハ債権者ニ在テハ履行ノ請求及ヒ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ヲ以テ取得シタル物ノ全部又ハ一分ノ任意讓渡ニ因リテ成ル

第五百五十六条 (略。成案五五七条と同一)

第五百五十七条 初ヨリ無効ナル行為ハ之ヲ認諾スルコトヲ得ス但方式上無効ナル贈与又ハ遺言ノ相続人ノ承認ニ関シ下ニ掲ケタル規定ヲ妨ケス

第五百五十八条 算數、氏名、日附又ハ場所ノ錯誤ノ改正ヲ目的トスル訴権ハ時効ニ罹ルコト無シ但此訴権ノ附属スル主タル權利ノ時効ヲ妨ケス

第八節 廃罷及ヒ解除

第五百五十九条 (略。成案五六〇条と同一)

第五百六十条 義務ハ第四百九条、第四百二十一条及ヒ第四百二十二条ニ從ヒ明示ニテ要約シタル解除又ハ裁判上得タル解除ニ因リテ消滅ス

裁判上請求ス可キ解除訴権ハ通常ノ時効期間ニ從フ但法律

ヲ以テ其期間ヲ短縮シタル場合ハ此限ニ在ラス

第四章 自然義務

第五百六十一条 自然義務ノ履行ハ訴ノ方法ニ依リテモ相殺ノ抗弁ニ依リテモ之ヲ要求スルコトヲ得ス其履行ハ債務者ノ任意ナルコトヲ要シ法律ハ其良心ニ委ス

第五百六十二条 債務者ノ任意ノ弁済ハ不当ノ弁済ナリトシテ之ヲ取戻スコトヲ得ス

第五百六十三条 (略。成案五六四条と同一)

第五百六十四条 自然義務ハ法定ノ承諾ヲ却却スル錯誤ノ為メ目的ノ指定ノ欠缺若クハ不足ノ為メ又ハ必要ナル公式ノ欠缺ノ為メ初ヨリ無効ナル合意ニ因リテ生スルコトヲ得然レトモ方式ノ欠缺ノ為メ無効ナル贈与ニ関シテハ贈与者自ラ自然義務ノ履行又ハ追認ヲ為スコトヲ得ス其相続人又ハ承継人ノミ之ヲ為スコトヲ得

前項ノ規定ハ方式上無効ナル遺言ヲ為セル者ノ相続人ニ之ヲ適用ス

第五百六十五条 (略。成案五六六条と同一)

第五百六十六条 債務者カ不当ノ利得、不正ノ損害又ハ法律ノ規定ニ因リテ法定義務ヲ負担スルコト有ル可キ場合ノ外債務者ハ此名義ニテ自然義務ヲ負担シタリト有効ニ自ラ追認スルコトヲ得

第五百六十七条 自然義務ハ法定義務ノ銷除、廃罷又ハ解除

カ裁判上ニテ宣告セラレタル後存立スルコトヲ得
法定義務カ此他ノ消滅方法ニ因リテ消滅シタル後ニ於テモ
亦同シ

第五百六十八條 免責又ハ取得ノ時効ノ利益ヲ援用シタル者
既判力ノ利益ヲ受クル者又ハ其他ノ推定若クハ証拠ヲ申立
ツルコトヲ得ヘキ者ハ尚ホ自然義務ヲ負担セリト自ラ追認
スルコトヲ得

第五百六十九條 (略。成案五七一條と同一)